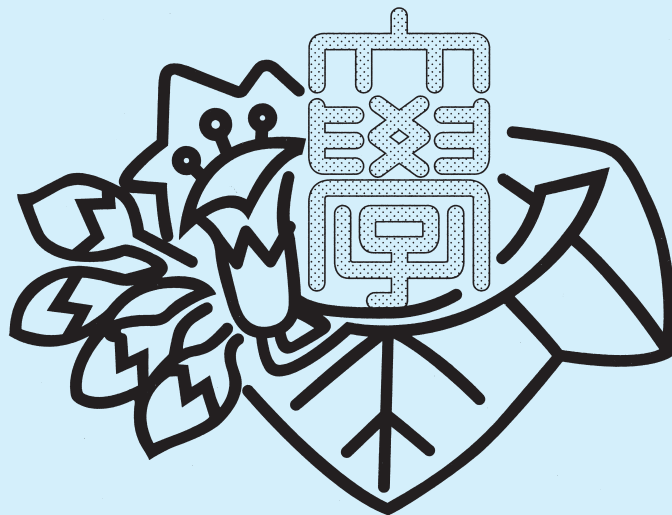


岩手大学保健管理センター紀要

第 43 号



平成 29 年 3 月

岩手大学保健管理センター

序 文



岩手大学保健管理センター長

立 身 政 信

岩手大学保健管理センターの紀要もデジタル化しました。時代の流れです。老頭兎の私はちょうど引退の時期となりました。例年、センター紀要では一年遅れで前年度の事業を報告しているのですが、本報は一昨年前の平成27年度に行った事業の報告号になるのですが、この序文を執筆しているのは平成28年度末なので定年退職を目前にして書いている状況です。

後任のセンター長も決めていただいたので、向後の憂いなくゆったりと過ごしたいところですが、17年間に溜め込んだ書籍や書類の壁を取り壊して原状復帰させる作業に追われています。「無駄な壁は作らない方が良い」とトランプ大統領に教えてあげたい心境です。

さて、平成27年度には保健管理センターにとって最大のイベントと言える「全国大学保健管理研究集会」の主管がまわってきました。平成27年9月9日・10日、盛岡市民文化ホール（マリオス）を主会場に、第53回全国大学保健管理研究集会が開催され、全国各地から777名の参加者と147題の一般発表をいただきました。岩渕明 学長が実行委員長、丸山 仁 学務担当理事・副学長と私が副実行委員長となって、保健管理センタースタッフが企画から実行まで学生支援課の支援をいただきながら、徹底的な「おもてなし」の精神で作上げた研究集会でした。2011年に東日本大震災津波を経験し、全国各地から戴いた御支援に感謝して、学生や教職員の健康管理を業務としている私たちに、被災者の健康を回復し、ひいては被災地の復興に直接的・間接的に寄与できることはないだろうかという気持ちから「健康を大学から地域へ 感謝とともに」というテーマにさせていただきました。開会式に続いて岩渕学長から「岩手大学の震災復興の取組みと今後の展望」と題して「復興から全国の地域創生のモデルを目指したい」とする特別講演をいただき、次に、冬季パラリンピックチェアスキー金メダリストで岩手大学工学部の卒業生である狩野 亮 選手に「今を生きる」と題する特別講演をいただきました。この他、教育講演2題、シンポジウム2題、ランチョンセミナー4題を企画して、各演者と座長のお力により、盛会裏にプログラムを終了することができました。終了後の慰労会では、スタッフの子供たちも参加して、学長からは「これまでで一番楽しい懇親会だった」との嬉しい評価をいただきました。

後日談ですが、この研究集会で当方のスタッフの薫陶を受けた地元の学会請負業者に、翌年岩手県で開催された国民体育大会に併催される日本体力医学会大会を任せるところ、優れた企画・運営が評価され、次の愛媛国体でも体力医学会大会を請け負うことができたとのことでした。こうしたイベントの企画・実行能力は学生や教職員の健康づくりのために、大学の環境や雰囲気をつくっていく原動力ともなります。岩手大学保健管理センターのスタッフには、素晴らしい能力があったことを、改めて認識させていただきました。

一年間、保健管理センターを支援していただいた関係各位と、日常業務を大過なく遂行しながら本紀要をまとめていただいたスタッフ各位に心から感謝申し上げます。

目 次

序文 保健管理センター長 立身 政信…………… 1

I 立身政信教授・センター長退職記念

1. 定年退職を迎えて
立身 政信…………… 3
2. センター職員から送別のことば
…………… 9

II 平成27年度業務報告

1. 保健管理センターこの一年……………13
2. 健康相談……………15
3. 学生相談室活動報告……………17
4. 学生定期健康診断……………19
5. 職員定期健康診断……………23
6. 特殊健康診断等……………27
7. その他の健康診断……………28
8. 救護活動……………29
9. 健康教育・増進活動
 - 1) 健康クラブ……………30
 - (1) 太極拳教室……………30
 - (2) フラダンス教室……………30
 - (3) 健康セミナー……………30
 - 2) 禁煙支援……………31
 - 3) 性の健康教育活動……………32
 - 4) 学生相談室グループセミナー……………33
 - 5) コミュニケーショングループ……………34
 - 6) 保健管理センター通信……………36
 - 7) 講義・講演……………37
10. 他部局との協働共催及び地域貢献
 - 1) 協働共催
 - (1) A E D 講習会……………38
 - (2) 教育推進機構、学務部との協働・協力
……………38
 - 2) 地域貢献
 - (1) 実習の受け入れ……………38
 - (2) ヘルスプロモーション学習会……………39

III 平成27年度保健管理センターの現況

1. 保健委員会
 - 1) 委員会名簿……………41
 - 2) 開催記録……………41
2. 保健管理センター運営委員会
 - 1) 委員会名簿……………41
 - 2) 開催記録……………42
3. 学内委員会所属状況……………42
4. 学会・研修会等出席状況……………43
5. 保健管理センター職員名簿……………44

IV 第53回全国大学保健管理研究集会当番校報告

……………45

▶ 本誌の数表の記号

その事象が出現する可能性をもっているが、 統計上出現しない場合 ……………	—
その事象が出現することは、本質的にありえ ない場合 ……………	·
上記以外の統計数がない場合又は統計数を表 章することが不適当な場合（分母が10未満） ……………	…

I 立身政信教授・センター長退職記念

立身政信教授略歴

氏名 立身 政信（たつみまさのぶ）
昭和26年10月 秋田県横手市に出生
現職 岩手大学教授（保健管理センター長）

学歴および職歴

昭和51年3月 岩手医科大学医学部医学科卒業
昭和55年3月 岩手医科大学大学院医学研究科修了・学位取得（医学博士）
昭和55年4月 岩手医科大学医学部講師（衛生学公衆衛生学講座）に任用
昭和59年5月 岩手医科大学医学部助教授（衛生学公衆衛生学講座）に昇任
平成12年4月 岩手大学教授に任用、保健管理センター所長に就任、現在はセンター長
平成29年3月31日 同退職

専門分野

農村医学（農業労働と健康、特に農作業事故防止）
地域保健（健康増進計画の策定と推進、ヘルスプロモーション）
学校保健（小児肥満および青少年の喫煙対策）
産業保健（労働負担と産業疲労）

学会活動

全国大学保健管理協会理事・研究倫理委員会委員長（第53回全国研究集会運営副委員長）
国立大学法人保健管理施設協議会倫理審査委員会委員長・フィジカルヘルスフォーラム会長
日本農村医学会副理事長・農業災害部会総括責任者・倫理委員会委員長・編集委員（第59回日本農村医学会学術総会会長）
日本禁煙科学会評議員（第7回日本禁煙科学会学術総会会長）
日本体力医学会評議員（第71回日本体力医学会大会会長）
日本学校保健学会評議員（第64回日本学校保健学会副会長）
東北学校保健学会岩手県代表世話人（第49回・第55回・第61回東北学校保健学会会長）
日本公衆衛生学会評議員（第1回日本公衆衛生学会奨励賞受賞）
岩手公衆衛生学会理事長（第28回岩手公衆衛生学術集会学会長） 他

社会活動

岩手県健康いわて21プラン推進協議会委員（分析・評価委員会座長）
岩手県被災者健康支援事業運営協議会委員
岩手県スポーツ医・科学委員会委員
岩手産業保健総合支援センター産業保健相談員
盛岡市保健所運営委員会副委員長
盛岡市地域包括支援センター運営委員会・地域密着型サービス運営委員会委員長
盛岡市介護保険運営協議会委員
葛巻町健康づくり推進協議会委員
金ヶ崎町元気百歳プロジェクト会議委員
雫石町行政改革審議会委員、雫石町環境審議会委員
NPO法人ヘルスプロモーションいわて理事長 他

趣味の活動

岩手県ボート協会常任理事、盛岡市ボート協会理事長
（公社）日本詩吟学院正師範、岩手吟詠会会長
日本武術太極拳連盟公認C級指導員、岩手県武術太極拳連盟会長、盛岡市太極拳連盟会長

定年退職を迎えて

立身政信

医学部の6年間と大学院の4年間でちょうど10年間の学生生活を終え、引き続いて20年間教員として勤めた岩手医科大学を辞して、2000年4月に岩手大学に赴任することになりました。大学院生の頃に半年程外科の研修を受けたものの、以後ずっと衛生学公衆衛生学という臨床医学とは異なる分野に身を置いていたため、診療所的側面も持つ大学の保健管理施設に勤めることにいささか不安を感じていました。しかし、岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座の同門である石川精子先生が、かつて所長を務められていたことや、同講座の主任教授であった角田文男先生のご姻戚である佐々木大輔先生が弘前大学保健管理センター所長として全国の国立大学保健管理施設協議会長を務める斯界のリーダーだったこともあって、何かと相談に乗っていただき、日を置かずして不安は解消されました。医療面でも、岩手大学の周辺には県立中央病院の他に、多くのクリニックが存在し、ほとんどすべての臨床科が揃っていて、多くのドクターが大学時代の後輩である私を好意的に迎えてくださいました。

国立大学ということもあって兼業は最小限に抑えられ、それまで行なっていた農業労働に関する研究や地域活動に出る機会が減少したため、時間を持て余すようなこともありました。当時、保健管理センターは本部棟の一角にあり、訪れる学生の数も少なかったのです。産業医の業務も無ければ、障害を持つ学生の支援もこれといってありませんでした。キャンパスには自然が溢れ、所長室の窓からは大きな桜の木と、その木に一生懸命巣穴を作るアカゲラがすぐ近くに見えて、飽きることがありませんでした。センター周囲の空き地も雑草の庭で、可愛い野草も生えるものですから、「ここは草刈りをしなくてもいい」と言ったところ、「今度来た所長は随分変わっているゾ」という噂が流れたようです。

私の専門分野である衛生学公衆衛生学というのは所謂予防医学ですから、保健管理センターの主要業務である健康診断には、大学院生の頃からお手伝いに来ていました。そのため、看護スタッフの藤沢良子さん、立花クニ子さん、高橋トヨさん、佐藤加代子さんとは旧知の仲という感じでした。保健管理センターの事業評価には健康診断の受診率が最もわかりやすい指標になりますから、スタッフも受診率向上のために頑張っていました。しかし、その頃健康診断経費は保健管理センター予算に計上されていたから、受診率が上がれば上がるほどセンター経費は減っていきます。これは変だぞということで、財務委員会で健康診断経費を保健管理センター経費から外してもらうようお願いし、承認していただきました。センター予算はほぼ半減しましたが、再検査や事後指導も健診の一環と認めていただき、あまりお金に困ることなく活動ができるようになりました。

赴任の翌年には看護スタッフの定数削減があり、2名の退職者に対して1名のみ採用となりました。新採用された阿部智子保健師は、早坂浩志カウンセラーを抜いて最年少のスタッフとなり、学生の心情を理解しやすいこともあって保健管理センターに新風を吹き込んでくれました。その年の11月に学生センター棟が改修され、旧学生センター棟にあった入試課と本部棟にあった保健管理センターを交換することになって、新センターのレイアウトを検討することになりました。会議室などは学務部との共有となり、床面積は減少しましたが、同様に学務部との共有で多目的に使用可能なエントランスホールを確保してもらいました。予防医学は疾病の早期発見早期治療（二次予防）から健康増進（一次予防）へとシフトし、その方法もヘルスプロモーションと称される環境作りと自己決定による参画を主体とするやり方によって変わってきていたのです。既に本部棟の外で実施していた太極拳教室を、このエントランスホールで行えるように目論んだのでした。以後、この太極拳教室は学生のみならず、教職員や退職者、さらに地域住民も参加し、私が退職するまで継続することができました。特別な学生には、保健体育科との連携で「健康・スポーツ科目」の単位を与えることもできました。夕方の開催でしたが、センターの看護スタッフにも協力をいただいて続けられたものと感謝しています。願わくはスタッフに太極拳の指導者として後を継いでもらいたかったのですが、残念ながら叶いませんでした。

2004年度に国立大学が法人化され、私には新たに大学の専属産業医という職務が課されました。毎月の職場巡視や安全衛生委員会への出席など、業務量や責任が付加されたのですが、以前から検討していた大学の禁煙化を進める組織とスタッフができたことは喜ばしいことでした。まずは国立大学法人の中期目標に大学の禁煙

化を明記していただき、平成20年度から敷地内禁煙とすることを、当時の平山健一学長から宣言していただきました。以後、3年の分煙期間を設け、学生のアイデアで中央学生食堂前にカウンタダウンボードを置いて毎朝日数を貼り替えながら（私の日課でした）、禁煙への啓発と禁煙希望者への支援を続けました。予定通り平成20年4月1日から敷地内禁煙となりましたが、想定内ではあったものの、門外での喫煙やポイ捨てが増え、クレームも寄せられました。これに対して、主に衛生管理者の職員や学生ボランティアが吸い殻拾いや啓発活動を繰り返し、大学首脳たちにも毎年周囲の町内会長さんたちとの懇談会をもって丁寧に対応していただいたおかげで、大学敷地内禁煙が継続されてきました。ところが、数年前から、学生議会などで敷地内禁煙を分煙に戻す意見が出始めました。当初は80%以上の学生が支持していた敷地内禁煙に異を唱える学生が増えてきたのです。平成19年度までは分煙の状態にもかかわらずキャンパス内には吸い殻が散見され、歩行喫煙も見られました。そうした大学の喫煙問題に対して敷地内禁煙を支持する声が多かったわけですが、それから8年を経て、分煙の状況を知る学生はほとんどいなくなりました。彼らにとって岩手大学の喫煙問題は、門外での喫煙やポイ捨てなのです。それならば広いキャンパスの中に喫煙所を作ってそこで吸ってもらえば近所への迷惑も解消できると思うのでしょうか。過去を知らない人々は、こうして同じ過ちを繰り返すのです。津波もそうでした。戦争もそうかもしれません。その過去を伝え、これからもタバコの無い大学を継続させてもらいたいと心から思います。こうした岩手大学における喫煙対策についての研究発表は、全国大学保健管理研究集會に於いて、2度の優秀演題賞に輝きました。

このようにスタッフの研究心とその技能が向上した要因の一つに、2008年度に岩手看護短期大学の教員から保健管理センターに採用された長沼敦子保健師の力があつたと思います。赴任早々に他の看護スタッフも含めて3題の科学研究費を申請し、すべて採用されてそれぞれの看護研究を進めてくれたのです。また、早坂カウンセラーの研究課題も、ほぼ毎年科研費助成を受け、2010年5月には第28回日本学生相談学会を担当するに至りました。それ以前の2005年3月に、国立大学法人保健管理施設協議会の第7回フィジカルヘルスフォーラムを開催しており、全国から集まるたくさんの参加者をおもてなしする機会が出てきたこともあって、大きな学術集會を企画運営する能力がついてきたものと思います。2010年11月には全国のJA厚生連病院が中心となつて行われる日本農村医学会の第59回学術総会をJA岩手県厚生連との共同で開催しました。保健管理センターの業務とは異なる分野の学会であるにもかかわらず、会長を務めることになった私の願いに応じて親身になって取り組んでくれたスタッフの皆と学術面でご協力いただいた農学部の武田純一教授に心から感謝いたします。武田教授とは、その後も日本農村医学会を通して農林水産省から助成を得た農作業事故防止に関する研究を、一緒に遂行できたことは、私に大学教員として研究を続ける喜びを与えてくれました。保健管理センターとしては、2012年11月に第7回日本禁煙科学会学術総会を担当し、2015年9月には、第53回全国大学保健管理研究集會を担当することになりました。全国大学保健管理研究集會の内容は本紀要の序文にも書いたところですが、学務部と保健管理センターの職員が連携し、学生達の協力も得て成功した手作りの全国集會でした。それらのノウハウは間接的に2018年度岩手国民体育大会に併設された第79回日本体力医学会大会を主に教育学部の保健体育科の先生達とともに成し遂げた原動力にもなつたと思っています。保健管理センターが学生センター棟に移設されたことや、大学の法人化等によって健康相談や応急処置に来室する学生が急増するなかで、これらの全国的なイベントをこなしていくことは並大抵のことではありません。ストライキも起こさずに、参加者を笑顔でもてなし、慰労会では思いっきりはじけるスタッフの皆さんに尊敬と感謝の思いが溢れます。

スタッフの動向としては、2008年に精神的な疾患を持つ学生の対応が重視される事件があり、その分野の医師を教員として採用することになりました。最終的に心療内科ということで新沼志津子医師が准教授として採用されました。しかし御主人の勤務先移動に伴って退職され、後任にはそれまで非常勤で来ていただいていたカウンセラーの立原聖子先生が准教授として採用されました。学生相談の体制は充実したのですが、相談を受ける学生はそれを上回る増加を示しており、さらに2名の非常勤カウンセラーをお願いする状況になっています。

2015年度からは、障害を持つ学生の支援を行う学生特別支援室が開設されました。私には保健管理センター長、産業医に次いで、室長の役目が与えられましたが、ここでのキーパーソンは対象学生と担当教員や大学との間を取り持つコーディネーターです。ちょうど米国での勤務を経験して帰国した新村 暁 さんを採用するこ

とができ、保健管理センターとのコラボレーションで急増するニーズにしっかりと対応していただきました。私の退職に伴って、後任の室長には早坂准教授が就任することになり、さらに充実した活動が期待されます。

看護スタッフでは、2011年3月の東日本大震災を経験して過酷な1年間で最後に定年退職された佐藤加代子さんに代わって、2012年4月から茅平鈴子さんが採用されました。学生や教職員の禁煙指導に対する情熱を受け継ぎ、全国大学保健管理研究集会での優秀演題賞を受賞する快挙も受け継いでくれたお二人でした。

岩手大学のみならず、岩手県立大学や岩手看護短期大学など多くの大学の講義を担当させていただき、研究者としても学校保健分野だけではなく、ライフワークである農村医学の課題を継続した他、県や市町村の諸委員など地域貢献に割く時間が多くて、保健管理センターを留守にすることの多いセンター長だったのですが、(面と向かっては)嫌な顔一つせず、センターの一角で楽しい仲間の一人として受け入れてくれたスタッフが、今となっては一生の宝物のように思えます。

保健管理センターの担当事務は学務部の学生支援課であることから、センターのスタッフは学務部の親交会である「桐和会」に所属しています。保健管理センター長は桐和会の副会長を務めることになっており、忘年会や歓送迎会では閉め(閉会の辞)を担当することになっていました。酔いも回ってから閉めの挨拶をする気にもならず、かと言って3本じめや万歳三唱(実はトクイなのですが…)もマンネリになると思い、ここは俳句を一句ひねってみようかと、いたずらしたのが恒例となり、毎回新作を披露することになってしまいました。

最後の歓送迎会の閉めの一句は、冬の終わり、北帰行するハクチョウにお題をいただいて…

「白鳥に 誘われて 今 旅立ちぬ」と詠ませていただきました。

これをもって、17年間勤めた岩手大学保健管理センターを退職いたしますが、優秀なスタッフに恵まれて無事に職務を全うさせていただいたことに感謝し、学生と教職員の皆様に心からお礼申し上げます。また、ともに大学の保健管理に携わり、暖かい支援や頼もしい助言をいただいた全国の大学の関係諸氏に深甚なる謝意を表します。

あとは、後任の小野田敏行先生に託して、岩手大学保健管理センターの一層の充実を期待するとともに、岩手大学の発展を心から願ってお別れのご挨拶といたします。



先に豊かになれる者から豊かになれ そして落伍した者を助けよ

立身政信

先富論

演題は、中国の鄧小平元国家主席の言葉です。共産党の一方独裁国家である中国が、資本主義的手法を取り入れ、高度経済成長を成し遂げるきっかけになった「先富論」と言われる政策です。

この先富論は、あくまでも経済政策ですが、本講演は、もちろん経済の話ではなく、健康管理の話です。すなわち「先に健康になれる者から健康になれ、そして健康になれずにいるものを助けよ」ということを考えてみたものです。

現代病であるNCD（非感染性疾患）の予防には、リスクとなる生活習慣の改善が必要です。その支援をする健康管理の考え方として、「自分一人でも生活改善ができるような人は放っておいてもよい、そうではない人に支援の手を差し延べるべきである」というのが一般的だとは思いますが、敢えて先富論的考え方としてみました。

そのような考えは、ちょうど2000年に岩手大学の保健管理センターに赴任した頃から持っていましたので、自分から健康づくりに関心を持った学生や教職員には、できるだけ手厚い支援をしていこうという方針をスタッフに伝えていました。

この先富論的考え方は、そうではない（健康に関心を持たない）人に対するアプローチの困難さに比べれば楽な一面があります。健康診断の未受診者にどうアプローチするかを考えればうなずいていただけたと思います。しかし、未受診者も具合が悪くなったり、ケガをしたりすれば、保健管理センターを受診してくれる場合があります。そんなケガ人は、もしかしたら先に豊かになれるチャンスをつかんだ人かもしれません。

ケガをチャンスととらえる

通常、保健管理センターを受診したケースは、性・学年等の属性別に内科系、外科系、皮膚科系、眼科系等々に分類されて、症例数として報告されます。もう少し詳しくは、例えば外傷であれば熱傷、打撲

傷、切傷等々に細分して数えられることもあります。しかし、こうした数字を数年分並べてみても、あるいは月別に並べてみても、どうしてそのような分布や傾向になったのかを正確に知ることはできず、再発防止につながるわけでもありません。多くは、ただ「気をつけましょう」と叫ぶのみです。

私は、衛生学公衆衛生学を専門としていますが、こういう統計データは、個別事例の集合であることを常に考えながら研究を行ってきました。現在でも農作業事故防止のための研究を事故事例の詳細な面接調査と現場調査で行っています。そのデータを集積しても母集団を代表するような標本には成り得ないわけで、疫学研究と言えるものではありません。それでも事故事例の詳細な分析からは、再発を防止するためのヒントが数多く抽出され、実際の事故防止に活かされて事故の減少という結果に結びついてきています。

大学における事故も、同様に減少させ得るのではないかということで、保健管理センターを受診した外傷患者には、看護スタッフが治療をしながら事故の背景から受傷者自身が考える再発防止策まで、インタビューすることにしています。事例は少ないのですが、ケースによっては産業医の職場巡視として現場を視察することもあります。インタビューによって得られた情報は、本人の同意を得たうえで、大学の安全衛生管理室と担当教員等にメールで報告します。担当教員からは感謝や反省の返信をいただくことが多いのですが、「学生の不注意によるものなので、今後指導を徹底します。」というような内容が結構多く見られます。不注意は人の常、注意しろよと指導されてもほとんど改善にはつながりません。これでは、せつかくの事例が再発防止に活かされず、豊かになれるはずだった受傷者自身と研究室のメンバーが豊かになり損ねてしまいます。

その解決策と言っても良いと思いますが、2010年度から工学部（現理工学部）の応用化学科では、年に2回学生実習担当教職員と大学院生を対象に事故

事例から学ぶ安全対策と救急対応の講習会を保健管理センターのスタッフも参加して開催しています。

2006年度には岡山大学保健管理センターの戸部和夫先生がこうした事故事例を小冊子に編纂して発行されました。実に先進的な試みであったと敬服しております。

岩手大学では、2010年頃から寮生やサークルからも安全講習会開催のリクエストが来るようになり、看護スタッフが現在も年間4～5回対応しています。

健康クラブ

これより先、私が赴任して早々の2000年度に、安全の知識や技術だけではなく、生活習慣として「先に豊かになる」者を求めて、健康クラブを立ち上げました。この年の「学園だより第83号」に、以下のような宣伝を掲載しました。(抜粋)

「生活習慣は、小さい頃から周囲の人たちの影響を受けて形作られ、長い間に固定観念として身につけていきます。もしその中に喫煙や飲酒、不規則な生活、偏った食べ物、運動不足などの習慣があっても、他人に言われてすぐに改められるものではなく、まして本を読んでどうなるものでもありません。理屈ではなく心から納得して初めて変えることができるものです。まずは自分から主体的に取り組むことが第一条件です。保健管理センターではそういう気持ちになった人たちに健康的な生活習慣を取り戻す場を提供することにしました。参加者の主体的な取り組みを大事にし、指図をすることなく、みんなの納得が得られることを大切にしたいと思っています。」

この誘いに乗って、3人の女子学生がやってきました。話し合いの結果「リラックスしたい」ということになりました。そこで「ふれあい」をテーマに、お互いにリラックスマッサージをすることにしました。何回か行って、次は何をするか話し合った結果「ケーキバイキングをしたい」ということになり、ケーキ屋さんに行ったのですが、何か違うぞということで、終了にしました。自分たちでケーキを作ることから始めれば、どうにかなったかもしれません。

次は、私が趣味でやっている太極拳を教えることにしました。屋外で楽しんでいたところを取材され、新聞に掲載されたこともあってか、一般市民も参加するようになって、今でも続いています。

この他、バランスボール、ヨガ・エクササイズ、アロママッサージ、詩吟等、様々なメニューを提供して心身のリラクゼーションを図ってきましたが、

どれも千客万来という状態にはならず、先に豊かになったはずの人たちが、次に続く人たちに手を差し延べるといふところまでは、至りませんでした。

ピアサポーター

2005年度に、学生の仲間（ピア）を活用して性に関する情報提供や相談支援を進めていく「ピアサポート」体制を構築することになりました。学生支援課を介して全学生を対象に募集を行い、9名の応募がありました。「先に豊かになれる人たち」です。

学生支援課では、1泊2日の宿泊研修と別に1日の研修を行い、カウンセラーからは相談のスキル、保健師からは妊娠・避妊・性感染症について知識を与える講義とグループワークを行いました。

その上で、新入生に対する履修相談をはじめ、世界エイズデーでのレッドリボンやコンドームの配布、世界禁煙デーでの吸い殻拾いなど、健康づくり活動にも積極的に参加してもらいました。

翌年には14名の学生が応募し、自らのための学習を深めて「先に豊かになれる者」となり、優れた相談相手となって「落伍した者を助け」、次に豊かになれる者のための研修企画をたてるまでになりました。先富論の優れた実例と言って良いでしょう。

喫煙対策

禁煙に挑戦する喫煙者は、「先に豊かになれる者」と言って良いかもしれません。

保健管理センターの呼びかけに応じて禁煙支援を受ける学生は大まかに見て喫煙者の10%程度です。

ほとんどがニコチンパッチを使用して、週に一回程度来所しながら禁煙をめざしますが、支援終了時点では8割程度が禁煙できているものの、1年後の追跡で禁煙が続いている人は調査できた人の半数ほどです。それでも中には友人にも禁煙支援を受けるように誘ってくれる学生がいますから、彼らは「落伍した者を助けよう」としていることになります。

ところで、学生の喫煙率は年々減少し、最近では10%程度になっているようです。これほどまでに減少してきた原因は、一つにはFCTC（タバコの規制に関する世界保健機関枠組み条約）への批准に伴うタバコの広告や宣伝の規制にあります。子供たちが喫煙に興味を持つきっかけを無くしているために、未成年者の喫煙率は急激に低下しているのです。

もう一つの原因は、学校の敷地内禁煙化です。子供たちの周囲から喫煙を無くすことが、子供たち自

身に喫煙習慣を身に付けさせることを防いでいるのです。だとすれば、入学してから20歳の成人を迎える大学生の場合も、キャンパス内を禁煙にすることで喫煙を開始する人の割合を抑えられるかもしれません。岩手大学は2004年度からの分煙に続いて2008年度から敷地内禁煙に踏み切りました。「社会の趨勢と学内関係者の健康と教育の観点から学内禁煙化を促進する」という中期目標に沿ったものなのですが、岩手大学が喫煙対策の面で「先に豊かになれる大学」になったわけです。

しかし、この措置によって、通用門の外側にたむろして喫煙する状況が出てくるようになり、学生や教職員だけでなく、近隣の地域住民からもクレームが寄せられました。ただし、事前に予想されていた想定内の事態でもあり、直前に町内会や盛岡市役所の担当者等とシンポジウム形式の討論会を開いて、学内外の美化に努めることなどの共通認識を持つことができました。また、衛生管理者を中心にピアサポーター等の学生ボランティアも一緒に吸い殻拾いなどを行うことで、一定の理解が得られ、全体的な喫煙者の減少とともに門外での喫煙者も減少傾向にあって、敷地内禁煙の撤回には至っていません。岩手大学の学生の喫煙率は、現在3%程度にまで低下しています。

こうした経験は、後に続いて敷地内禁煙をめざす大学にとって目標とするべき成功事例となるため、問い合わせや講演の依頼が寄せられるようになりました。「次に続く(落伍した)者を助ける」先富論が功を奏していると考えられます。

そういう意味では、東北地方には「先に豊かになった大学」が多く、キャンパス毎には少しの例外はありながらも、各県にある国立大学法人をはじめ、多くの公・私立大学が敷地内禁煙となっています。全国的には、例えば東京都内にある13の国立大学法人のうち、敷地内禁煙なのは東京医科歯科大学だけであり、関東地方全体を見てもごくわずかです。国立大学法人保健管理施設協議会としても、全国の国立大学法人に敷地内禁煙の実施を呼びかける要望書を提出するなどの「落伍した者を助ける」行動をとっていかようとしています。



センター職員から送別のことば

カウンセラー 早坂 浩志

立身政信先生には、私が岩手大学にカウンセラーとして着任して3年目に出会い、以来、16年間ご一緒に仕事をさせていただきました。間違いなく言えるのは、現在も私が本学で学生相談をしているのは立身先生のお人柄とお力によるところが大きいということ、言い換えれば、私にとって魅力的な学生相談の場を先生が提供してくれたということです。

一つは、先生の健康教育への並々ならぬ意欲です。「健康クラブ」や喫煙予防教育など、学生と職員がより健康的な生活を得られるように、様々な取り組みをなさってきました。悪いところを直す「治療」よりも「予防と教育」を大切にするのはカウンセリングや学生相談の理念とも一致します。そういう意味で、先生が目指す保健管理センターの姿は、私にとって親しみやすいものでした。

もう一つは、私と学生相談の尊重です。おそらく先生は学生相談というものを不可解に感じていらしたところもあったでしょうし、いつまでもタバコをやめない私に苛立っておられたことでしょう。それでも先生は学生相談に関して私がすること、したいことを本当に尊重してくださいました。自身の価値観と信条を大切にすると同時に相手の価値観と立場を大切にすること、これもカウンセリングに通じるところです。最終的に私はタバコをやめましたが、私を尊重してくれた先生の顔が浮かんだこともその要因の一つであることを白状しておきます。

まだまだ先生に感謝したいエピソードはたくさんあります。仕事柄、トラブルに直面したり危ない橋を渡らざるを得ないことは時々ありますが、「立身先生の首だけはとばさない」が私の中の行動規準でした。幸い、現在は私が何かやらかしてもセンター長の首は（たぶん）とばなくなりましたので、立身先生同様に自身の信条を大切に仕事に励んでいきたいと考えております。

カウンセラー 立原 聖子

私が非常勤カウンセラーとして保健管理センターで働くことになったのは、平成15年の10月、まだ20代のときでした。それまで中・高校生のカウンセリングしか経験がなく、大学生と向き合うことへの不安を抱えながら初日に何うと、対応してくださるはずの早坂先生が不在でした。学生が自殺企図で病院に救急搬送され、そちらに向かったとのことでした。いきなりの洗礼（！）で「たいへんなところに来てしまった…」と不安を強めた私に、優しく案内をしてくださったのがセンター長である立身先生でした。立身先生は、二階にある学生相談室を見せてくださり、保健管理センターの歴史やスタッフについてお話してくださいました。また、学生が気軽に訪れやすい、あたたかい雰囲気づくりを大事にされているとお話されました。確かに立身先生ご自身が穏やかな雰囲気ですし、保健師さん達は私に笑顔でお茶を出して話しかけてくださり、リラックスできたことを覚えております。

その後、立身先生や早坂先生、保健師さんたちに学内連携や学生相談について教えていただき、学外研修の機会をいただきながら7年をすごし、常勤カウンセラーとして迎えていただいて今日に至ります。

立身先生は「医者には二通りあるそうです。心を診る医者と、体を診る医者。私は体を診る医者です。」というふうにおっしゃって、学生相談業務に関しては私たちカウンセラーに任せてくださいました。もちろん教職員のメンタル不調や学生の病院紹介等は報告していましたが、基本的には見守り育ててくださいました。

こうして保健管理センターでお世話になって15年目を迎えました。あんなに緊張していた初日が別人のように図太くなってしまいましたが、少しはお役に立てるようになったのでしょうか。立身先生が大事にされてきた保健管理センターの雰囲気を守っていきながら、一層の努力をして参ります。今までたいへんお世話になりました。ありがとうございました。

立身先生には、保健師学生時代から市町村時代、看護短大時代、そして現在の岩手大学時代において大変お世話になりました。先生は公衆衛生学の第一人者であり、保健師はもとより様々な分野から今もなお頼りになる存在です。

岩手大学の保健管理センターでは、保健師がやりたいと思うことに対しては、可能な限りOKをだしていただき、楽しく仕事ができる環境を作ってくださいました。笑いが絶えない職場で、学生・教職員の出入りも多く、自慢の「ホケカン」になっています。

また先生は、どんなに忙しい状況でも依頼があると親切に対応し、大方はお引き受けし県内外を飛び回っておりました。ある時先生に、センターに医師は一人なので、倒れられては困る旨話しますと、学内においてはセンターの存続にもつながるので、依頼があったら積極的に協力したほうがいいとのことでした。センターのことを考えた上での行動だったと頭が下がりました。とにかく先生のスケジュールは、週末も含め埋め尽くされ、先生の「来るものは拒まず、去る者は追わず」精神！そして気力・体力の強さに脱帽でした。これゆえ!? 17年間の岩手大学時代に全国規模の学会を4回開催し、内3回は保健管理センターで運営事務局を担当しました。6名足らずのスタッフで今更ながらよくやったなあと思う今日この頃です。これは、なかなか経験できることではなく大変勉強になりました。何をやるにも人づくり、信頼関係がいかに大切かということを実感しました。先生のお人柄で、様々な方々のご協力が得られ運営ができたと思います。こういう機会を与えていただき本当にありがとうございました。

今後は、先生が築いた法人化後の大学保健管理の基盤をもとに、先生から学んだ保健予防の視点を忘れずに活動を広げていきたいと考えます。

立身先生と一緒に働かせていただいたのは、5年間でしたがご一緒に働くことができとても光栄でした。

保健管理センターの仕事は多岐にわたりますがその中で、私が担当することになったタバコについては、岩手大学が全面禁煙になるまでの経緯を細かく教えていただき、立身先生初め、保健管理センタースタッフの創意工夫あふれる活動と努力によって、達成された実績であることを自覚し取組ませていただきました。

そのタバコについて肩の荷が重かった任務は、全国大学保健管理研究集会で研究発表をすることでしたが、錆びついた頭の錆を少しずつ剥がしていただきながら、形にすることができ感謝しております。毎日のように研究の中身について議論したことが懐かしく思い出されます。立身先生の斬新な発想に何度も戸惑い、内心これで良いのだろうかと思っていた演題が優秀演題賞を受賞した時には、驚きとともに立身先生の先見の明に脱帽しました。私も立身先生の言うところの分煙以前の学内の様子を知らない1人だったことを自覚し、現在在学している学生たちにその歴史を伝えていかなければいけないと感じています。

新しい取組みは、なかなかできていませんがこれからもタバコの無い大学を継続できるよう取り組んでいきたいと思えます。

健康クラブでは、太極拳を一緒にさせていただきましたが、業務の都合等でなかなか練習に参加できず、体得するまでに至らなかったのは残念です。教職員、学生、地域の住民の方々と健康づくりをしながら、コミュニケーションが取れる大切な場であったと思っています。

のびのびと保健管理センターの仕事に取り組むことができたのは、立身先生が自由な発想で見守ってくださっていたためと感謝しております。ありがとうございました。

好奇心旺盛な立身先生のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

立身先生と初めてお会いしたのは私が学生の頃でした。公衆衛生学という、専門的な分野について教えていただきましたが、覚えているのは、いつもニコニコ授業をされていた事と、残念ながらアーユルヴェーダの事だけです。その後、岩手大学で一緒にお仕事させていただく事になりました。

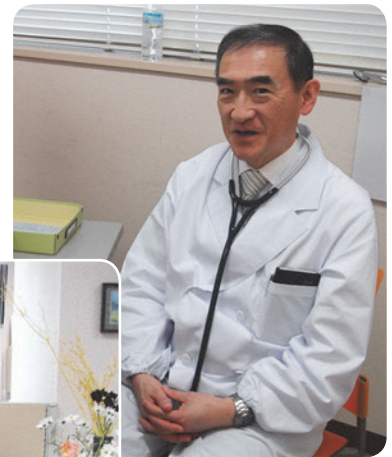
先生といえば「大学の禁煙化」です。私が採用された時代は、学内での喫煙が可能で、講義室の前や階段に灰皿が点々と置いてある環境でした。喫煙所となっている場所を把握するため、キャンパス内の全ての建物を数日かけて巡視しました。右も左もわからない状態でしたが、この経験があったからこそ、大学の場所や名称を早く把握することができたと思っています。

次に「研究」です。研究が大の苦手な私に、研究とは何かを詳しく丁寧に、根気強くご指導してくださいました。研究の意味や楽しさ？をほんの少し知ることができた気がします。

最後は「学会」です。参加することはあっても、運営側になるのは初めてで、わからない事ばかりでした。また、日常の業務と平行して準備する事は大変でした。しかし、文書の書き方、関数計算、掲示物の作成のスキルなどを学ぶことができ、貴重な経験をさせていただいたと、今は思っています。

先生からは、仕事だけでなく、大学やセンターの歴史、ゴムでハエを仕留める方法、秋田の方言等々、知らないことをたくさん教えていただきました。

いつも予定がびっしりでお忙しい先生ですが、これからは、太極拳や詩吟をお楽しみいただいて、これまで以上に元気で充実した日々をお過ごしください。17年間お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。





Ⅱ 平成 27 年度 業務 報告

1. こ の 一 年
2. 健 康 相 談
3. 学生相談室活動報告
4. 学生定期健康診断
5. 職員定期健康診断
6. 特殊健康診断等
7. その他の健康診断
8. 救 護 活 動
9. 健康教育・増進活動
10. 他部局との協働共催及び地域貢献

1. 保健管理センター

この一年……

4月

- ・ 2日 工学部応用化学科安全訓練
- ・ 3日 留学生健康診断オリエンテーション
- ・ 7日 入学式 救護及び保健管理センター紹介
- ・ 8日～ 学生定期健康診断開始 (12日間)
* 講義「健康・スポーツ」(1年生全員対象)を担当 教材:「あなたの健康案内書」
- ・ 10日 第53回全国大学保健管理研究集会参加登録開始 ～7/1迄
- ・ 13日～ 学生寮にてインフルエンザ集団発生 (注意喚起・掲示・近隣医療機関に連絡調整)
- ・ 28日 職員定期健康診断 (附属校園)

5月

- ・ 7日～ 第1回保健管理センター運営会議、学生健康診断証明書発行開始
- ・ 8日 蜂抗体検査 (職員)
- ・ 12日 医療講習会 (ワンダーフォーゲル部)
- ・ 21日 学生定期健康診断胸部レントゲン2次検査
- ・ 23日 第58回盛岡・つなぎ間ロードレース大会救護
- ・ 25日 公衆衛生学実習①(岩手医科大学4名)
- ・ 28～29日 職員雇入時健康診断事後指導
- ・ 29日 第53回全国大学保健管理研究集会演題登録最終締切 登録数146題
- ・ 30日 フラダンス教室

6月

- ・ 1～5日 世界禁煙デー&エイズ検査強化月間イベントの企画・活動 ポスター掲示
- ・ 3～4日 職員雇入時健康診断事後指導、再検査
- ・ 5日 公衆衛生学実習②(岩手医科大学4名)
- ・ 10日 特殊健康診断 (電離放射線新規)
- ・ 18日 MARSに対する対応 (注意喚起および渡航前後の報告書提出決定)
- ・ 19日 産業保健実習(県立大学6名)
- ・ 22日 医療講習会 (ツキノワグマ研究会)
- ・ 23日 特殊健康診断 (VDT作業従事者: 釜石S、電離放射線新規)
- ・ 29日 ISO学内監査

7月

- ・ 1日 第53回全国大学保健管理研究集会参加登録締切 登録数640名
- ・ 16～17日 第53回全国大学保健管理研究集会東北研究集会 (東北大学当番)
研究発表1題発表「学生相談における人間関係に相談の近年の傾向について」
今年度の全国集会開催について東北地方部会で案内周知
- ・ 28～29日 特殊健康診断 (有機溶剤等1回目)
- ・ 24日、28～30日 放送大学試験救護
- ・ 31日 附属校園 職員事後指導

8月

- ・ 3日 盛岡さんさ踊り (岩大チーム参加) 救護
- ・ 4日、7日 特殊健康診断 (有機溶剤) 再検査
- ・ 6日 第1回オープンキャンパス救護
- ・ 7日、10～11日 平成27年度教員免許状更新講習救護
- ・ 10日～ 第53回全国大学保健管理研究集会 抄録集発送
- ・ 10～11日 H27ぱるんkidsサマースクール救護
- ・ 19日 特殊健康診断 (振動騒音)
- ・ 20日 職員AED講習会
- ・ 25～27日 職員定期健康診断①
* 学生センターA棟 (保健管理センター2F 物品庫含む) 耐震工事8～9月

9月

- ・ 8～11日 第53回全国大学保健管理研究集会 主催開催 参加総数777名
- ・ 8日 会場準備
- ・ 9～10日 研究集会2日間
- ・ 11日 国立大学法人保健管理施設協議会（拡大理事会・総会）
- ・ 14日 職員定期健康診断再検査
- ・ 24～25日 職員定期健康診断②
- ・ 8日 職員AED講習会
- ・ 29日 工学部応用化学科安全訓練

10月

- ・ 6日 留学生健康診断オリエンテーション
- ・ 9日 麻疹抗体検査（来年度教育実習予定者対象）、特殊健康診断（電離放射線、X線取扱者新規）
- ・ 13日 職員定期健康診断再検査
- ・ 17日 第2回オープンキャンパス救護
- ・ 17～18日 大学祭救護
- ・ 21日 学寮留学生の水痘罹患による感染拡大防止対応
- ・ 26日 10月入学留学生健康診断、獣医麻酔取扱者証明
- ・ 30日 附属特別支援学校職員内科診察・腹囲測定・事後指導、特殊健康診断（電離放射線新規）

11月

- ・ 5日 特殊健康診断（電離放射線新規）
- ・ 6日 10月入学留学生健康診断追加、特殊健康診断再検査
- ・ 9～10日、13日、16日 職員定期健康診（追加）内科診察・腹囲測定および再検査
- ・ 11日 担任教員と保健管理センター教員連絡会
- ・ 16日 職員子宮がん検診
- ・ 18日 第53回全国大学保健管理研究集会 引継会（大阪大学）
- ・ 19日 産業保健実習（看護短大専攻科6名）
- ・ 24日 獣医麻酔取扱者証明

12月

- ・ 1～25日 世界エイズデー 啓蒙活動
- ・ 4日 産業保健実習（県立大学4名）
- ・ 9日 特殊健康診断（X線取扱者および電離放射線新規）
- ・ 14～18日 職員定期健康診断事後指導

1月

- ・ 16～17日 大学入試センター試験、学内3ヶ所で救護担当
- ・ 19～26日 特殊健康診断（第2回有機溶剤）
- ・ 21日 職員定期健康診断追加 内科診察・腹囲測定事後指導
- ・ 21～22日 特殊健康診断（VDT作業従事者）
- ・ 22日 附属校園養護教諭と保健管理に関する会議開催
- ・ 22日、26～28日 放送大学試験救護

2月

- ・ 1日 特殊健康診断（第2回有機溶剤）追加
- ・ 4日 第2回保健管理センター運営会議
- ・ 12日、15～16日、22日 特定業務従事者健康診断第2回定期健康診断
- ・ 16日 特殊健康診断（振動・騒音）
- ・ 17～19日 附属中学校スキー学習救護
- ・ 19日、26日、29日 獣医師免許申請健康診断

3月

- ・ 8日 獣医師免許申請健康診断
- ・ 14日 特殊健康診断（電離放射線）
- ・ 23日 卒業式救護
- ・ 31日 H28学生定期健康診断用紙配布開始

* 医療講習会，各種健診についての詳細は，Ⅱ－4・5，Ⅱ－9－1）各業務報告参照。

* 入試関係の救護は省略。Ⅱ－8 救護活動参照。

2. 健康相談

1) 健康相談・学生相談日程

担 当	連絡先	場 所	曜 日	利 用 時 間
I 健康相談 医師 立身政信 保健師 長沼敦子 保健師 茅平鈴子 保健師 阿部智子	019-621-6074 E-mail : kenkou@iwate-u.ac.jp	学生センターA棟1階 保健管理センター	月 ～ 金	9 : 00～17 : 00
II 学生相談 カウンセラー 早坂浩志	019-621-6073 E-mail : gakusou@iwate-u.ac.jp	学生センターA棟2階 学生相談室ほか	月 ～ 金	9 : 00～17 : 00 (予約すれば18 : 00まで可能)
カウンセラー 立原聖子				
カウンセラー 豊田洋子				月 ・ 金
カウンセラー 織田信男	019-621-6768 E-mail : odan@iwate-u.ac.jp	人文社会科学部 6号館4階 人格・臨床心理学研究室	水	9 : 00～10 : 00 (予め電話かメールで予約して下さい)

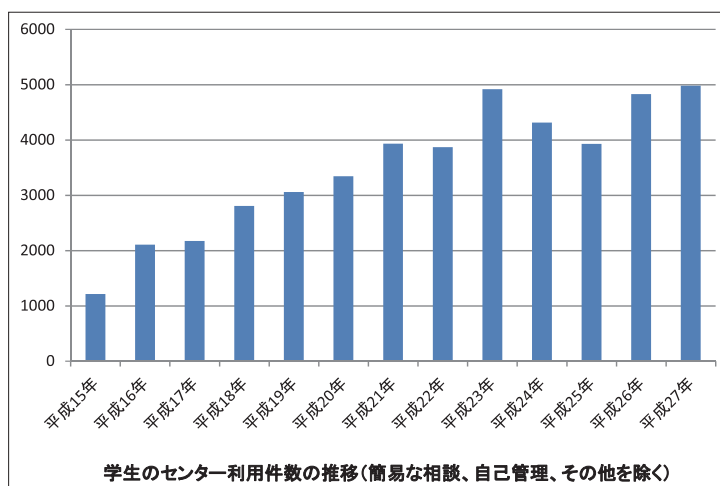
2) 来所理由別利用状況（平成27年4月～平成28年3月）

心身ともに健康な学生生活を送れるよう医師・保健師が健康相談を行っている。

科 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内 科 的 疾 患	学生	202	112	106	104	32	22	127	98	73	63	49	19	1007
	職員	16	9	17	22	23	20	19	19	10	5	12	11	183
外 科 的 疾 患	学生	101	161	279	282	61	20	100	102	71	53	61	26	1317
	職員	8	6	16	11	7	13	6	8	7	2	10	7	101
眼 科 的 疾 患	学生	8	3	7	3	2	3	16	3	7	1	0	0	53
	職員	2	1	0	4	0	0	1	2	2	0	1	2	15
耳 鼻 科 的 疾 患	学生	4	5	9	2	0	0	3	6	4	3	5	6	47
	職員	0	3	2	2	0	3	0	1	0	0	0	4	15
婦 人 科 的 疾 患	学生	28	16	18	6	5	4	10	11	10	26	30	6	170
	職員	0	3	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	6
泌 尿 器 科 的 疾 患	学生	4	1	1	1	0	1	2	0	2	1	0	0	13
	職員	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	4
歯 科 的 疾 患	学生	6	7	1	5	3	1	7	1	0	3	2	1	37
	職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
皮 膚 科 的 疾 患	学生	34	25	62	51	13	9	50	25	11	12	9	6	307
	職員	0	1	2	6	2	3	0	2	1	2	1	1	21
精 神 科 的 疾 患	学生	43	31	40	46	32	16	23	26	34	31	49	38	409
	職員	14	4	5	1	3	2	0	2	0	3	2	7	43
相 談 的 内 容	学生	153	104	133	132	87	85	190	112	108	135	161	141	1541
	職員	14	4	4	4	6	2	3	5	4	1	3	6	56
禁 煙 支 援	学生	13	12	7	6	1	0	9	16	0	3	6	8	81
	職員	0	0	0	0	1	2	1	1	1	0	0	0	6
小 計	学生	596	477	663	638	236	161	537	400	320	331	372	251	4982
	職員	54	31	47	51	42	45	31	42	26	13	30	39	451
簡 易 な 相 談	学生	81	63	35	65	4	15	42	23	12	26	16	15	397
	職員	4	9	8	10	0	10	4	13	0	3	10	4	75
自 己 管 理	学生	2	13	23	37	11	5	15	4	0	8	6	9	133
	職員	0	0	0	1	7	1	0	0	0	0	0	0	9
そ の 他	学生	161	180	60	31	23	10	16	9	14	8	33	4	549
	職員	7	9	3	12	15	37	64	29	48	21	13	19	277
小 計	学生	244	256	118	133	38	30	73	36	26	42	55	28	1079
	職員	11	18	11	23	22	48	68	42	48	24	23	23	361
計		905	782	839	845	338	284	709	520	420	410	480	341	6873

3) 証明書発行件数

証明書発行	学生	職員
センター発行	631	3
自動発行機発行	2439	



3. 学生相談室活動報告

1) 個別相談状況

平成27年度の学生相談室の相談体制は、専任カウンセラー2名、非常勤カウンセラー1名（週2日4時間ずつ）だった。平成27年度の実来談者は361名、のべ来談者数（相談回数）は2214名であった（26年度319名／2046名）。1人あたり平均6.1回の相談を重ねたことになる。1回の平均面接時間は約48.5分であった。

主要な相談統計を表1～9に示す。なお、表7は相談内容の分類法を示したものであり、全国学生相談研究協議会の専任カウンセラーが中心になって作成した「学生相談の共通分類」（下山ら、1991）によっている。相談状況の概要は以下のとおりである。

●26年度と比べると、実来談者数、のべ来談者数ともに大きく増加した。これは相談内容の「心理性格」に含まれる、発達障害やそれを疑われる学生のサポートや、医療機関につながりにくく、つながっても中断してしまう学生の修学援助が増加し、長い期間面接を必要とするケースが多くなっていることが理由と考えられる。また、継続的な見守りが必要な不登校学生の再登校支援といった対応も増えている。

●教職員や家族からの学生に関する相談の増加傾向が続いている。教職員からののべ相談件数は25年度209件から26年度は244件、27年度には353件と大幅に増加している。同様に家族からののべ相談件数は25年度が92件、26年度には158件、27年度155件になっている。発達障害学生のサポートや再登校支援など教職員や家族との連携が必要な相談内容が増加していることを裏付けている。

●来談経路で27年度に特徴的なのは、友人の勧めが26年度13名から21名、カウンセラーの講義が26年度4名から15名と増加していることである。学生相談がより身近な存在として認知されてきたことを示唆している。

●学年別では4年生（留年生含）の相談の増加傾向が続き、全体の30.5%に上っている。4年生以上の高学年の主な相談内容は、成績不振による留年、就学意欲の減退、卒業修了後の進路での迷い、研究室不適應である。

●教職員の自分自身の問題での来談は23名で、この数年は20名前後で推移している。主な相談内容は、精神疾患と人間関係（ハラスメント含）である。

2) リラクゼーション・スペースの利用

簡易ベッド、ボディソニック・チェア、エアロバイク、椅子とテーブルを配置したリラクゼーション・スペースの27年度の利用者は148名であった。一般学生の他、学生相談室に来談し対人恐怖的傾向のある学生の一時的な休息場所としても利用されている。

3) 心理テストの利用

学生相談室では、就職や進路選択、自己分析の際の一つの資料として利用してもらうために希望する学生に対して心理テストを実施している。行っていたのは「YG性格検査」、「東大式エゴグラム」、「VIP職業興味検査」である。27年度は2名の受検者があった。

表1 性別来談者数

性別	来談者数	%
男	170	47.1
女	191	52.9
合	361	100.0

表2 学年別来談者数

学年	来談者数	%
1 年生	51	14.1
2 年生	51	14.1
3 年生	68	18.8
4 年生*	110	30.5
修士課程学生	42	11.6
博士課程学生	3	0.8
教職員**	23	6.4
その他	12	3.3
不明	1	0.3
合	361	100.0

*農学部獣医学科5,6年生・留年生を含む

**教職員の学生の件での相談は含まない

表5 相談形態別のべ来談者数

形態	相談回数	%
面接	1639	74.0
電話	238	10.7
電子メール	309	14.0
その他	28	1.3
合	2214	100.0

表3 所属別来談者数

所属	来談者数	%
人文社会科学部	74	20.5
教育学部	62	17.2
工学部	93	25.8
農学部	97	26.9
教職員	23	6.4
その他	12	3.3
不明	0	0.0
合	361	100.0

表4 来談経路別来談者数
(常勤カウンセラーが対応した学生本人来談分)

来談経路	来談者数	%
新入生向けパンフレット	5	1.9
ポスター・ウェブ	38	14.2
友人の勧め	21	7.9
センター診療室の勧め	34	12.7
教職員の勧め	24	9.0
家族の勧め	9	3.4
カウンセラーの講義	15	5.6
継続・再来・その他	114	42.7
不明	7	2.6
合	267	100.0

表6 相談対象別のべ来談者数

対象	相談回数	%
本人*	1660	75.0
教職員	353	15.9
家族	155	7.0
友人	12	0.5
その他	34	1.5
合	2214	100.0

*学生および教職員本人

表7 相談内容の分類

心理性格	心理的問題、性格理解、アイデンティティの確立など、自己の心理状態や性格に関する相談
対人関係	家族関係、友人関係、異性関係等の、対人関係に関する具体的なトラブルについての相談
心身健康	精神疾患、身体疾患への対処などの、心理面あるいは身体面の健康上の問題に関する相談
進路修学	就職、進学、再受験などの進路の問題、あるいは単位や勉強法などの修学上の問題に関する相談
学生生活	サークル活動、アルバイト、悪徳商法等の、学業以外の学生生活上の問題に関する相談

表8 相談内容別来談者数

相談内容	来談者数	%
心理性格	219	60.7
対人関係*	65	18.0
心身健康	21	5.8
進路修学	46	12.7
学生生活	5	1.4
その他	5	1.4
合	361	100.0

*ハラスメント相談を含む

表9 相談内容別のべ来談者数

相談内容	相談回数	%
心理性格	1689	76.3
対人関係	190	8.6
心身健康	202	9.1
進路修学	115	5.2
学生生活	5	0.2
その他	13	0.6
合	2214	100.0

4. 学生定期健康診断

1) 日程

日 時		対 象 者		検査項目	
4/8(水)	午前 9:30~11:30	女	学部2年以上、大学院 研究生、科目等履修生	身体計測 内 科	
	午後 2:00~4:30	男			
4/9(木)	午前 9:30~11:30	男			
	午後 2:00~4:30	女			
4/10(金)	午前 9:30~11:30	女			
	午後 2:00~4:30	男			
4/13(月)	午前 9:30~11:30	男			
	午後 2:00~4:30	女			
4/14(火)	午前 9:30~11:30	女			
	午後 2:00~4:30	男			
4/16(木)	午前 9:30~11:30	男			
4/17(金)	午前 9:30~11:30	女			
4/20(月)	午前 9:30~11:30	男			
4/21(火)	午前 9:30~11:30	男			
4/22(水)	午前 9:30~11:30	男			
4/23(木)	午前 9:30~11:30	男			
	午前 11:00~11:30	女			
5/21(木) (予備日)	午前 9:30~11:30	男			
	午前 11:00~11:30	女			
4/16(木)	午後 2:00~4:00	男			農学部1年・編入生・留学1年目 (大学院・研究生・科目等履修生等)
	午後 4:00~4:30	女			
4/17(金)	午後 2:00~3:00	男	人文社会科学部1年・編入生・留 学1年目(大学院・研究生・科目 等履修生等)		
	午後 3:00~4:30	女			
4/20(月)	午後 2:00~3:00	男	教育学部1年・編入生・留学1年目 (大学院・研究生・科目等履修生等)		
	午後 3:00~4:30	女			
4/21(火)	午後 2:00~4:00	男	工学部1年・編入生・留学1年目 (応用化学・生命工学科、機械シ ステム工学科、社会環境科)		
	午後 4:00~4:30	女			
4/22(水)	午後 2:00~4:00	男	工学部1年・編入生・留学1年目 (マテリアル工学科、電気電子・ 情報システム工学科)		
	午後 4:00~4:30	女			
4/23(木)	午後 2:00~4:00	男	全学部1年・編入生・留学1年目 (大学院・研究生・科目等履修生等)		
	午後 4:00~4:30	女			
5/21(木) (予備日)	午後 2:00~3:00	男	全学部1年・編入生・留学1年目 (大学院・研究生・科目等履修生等)		
	午後 3:00~4:00	女			

2) 胸部X線検査

学部	学年	対象者数	受診者数 (率%)	有所見者数 (率%)	精密検査
人文社会科学部	1年	225	221 (98.2)	0 (-)	-
	2年	0	0 (0.0)	0 (-)	-
	3年	9	8 (89)	1 (12.5)	-
	4年	0	0 (0.0)	0 (-)	-
	合計	234	229 (97.9)	1 (0.4)	-
教育学部	1年	261	256 (98.1)	6 (2.3)	-
	2年	0	0 (0.0)	0 (-)	-
	3年	0	0 (0.0)	0 (-)	-
	4年	0	0 (0.0)	0 (-)	-
	合計	261	256 (98.1)	6 (2.3)	-
工学部	1年	431	416 (96.5)	5 (1.2)	1
	2年	0	0 (0.0)	0 (-)	-
	3年	8	6 (75)	1 (-)	-
	4年	0	0 (0.0)	0 (-)	-
	合計	439	422 (96.1)	6 (1.4)	1
農学部	1年	217	213 (98.2)	0 (-)	-
	2年	0	0 (0)	0 (-)	-
	3年	5	4 (80)	0 (-)	-
	4年	0	0 (0.0)	0 (-)	-
	獣4・5・6年	0	0 (0.0)	0 (-)	-
	合計	222	217 (97.7)	0 (0.0)	-
留学生		41	30 (73.2)	1 (3.33)	-
総計		1197	1154 (96.4)	14 (1.2)	1

○学部1年生、編入学生、入学1年未満の留学生を対象に胸部X線検査を行った。

『留学生』とは、入学1年未満の大学院生、研究生等を指す。

学部1年、編入の留学生は、学部1年、学部3年の対象とする。

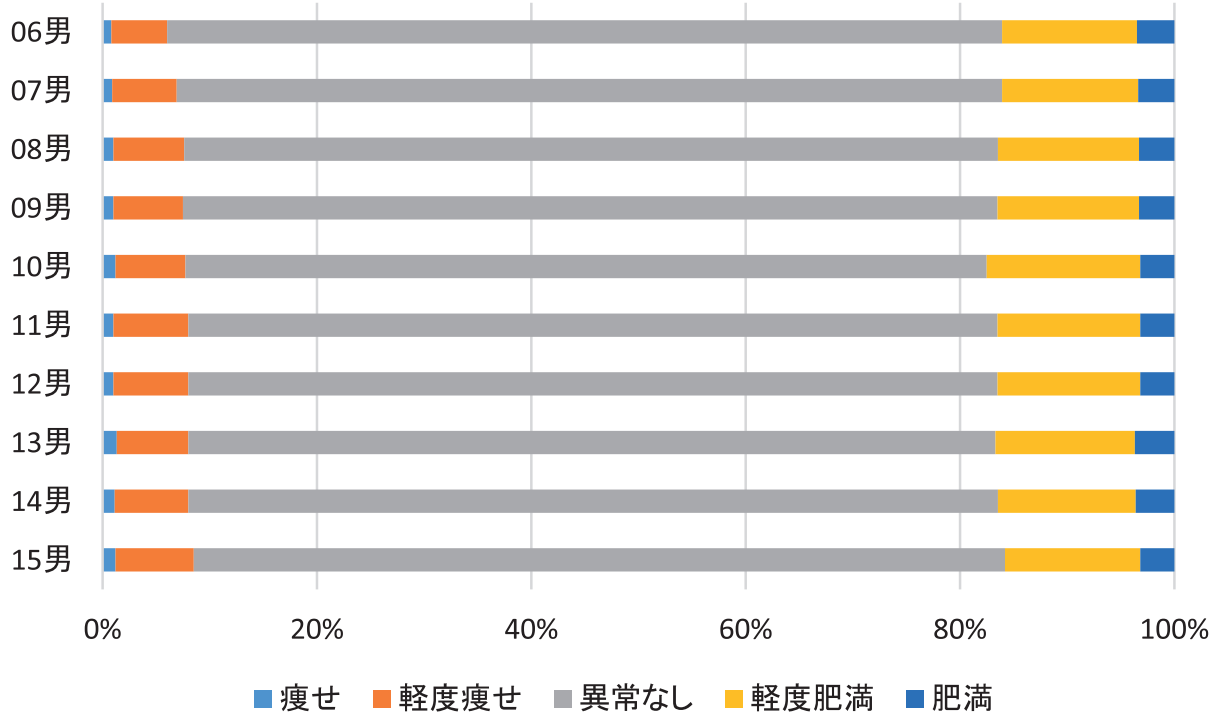
精密検査1名のうち名は「自然気胸」のため医療機関受診し、内視鏡手術を実施した。

○10月入学、入学後未受診の留学生に対し胸部レントゲン撮影を行った。

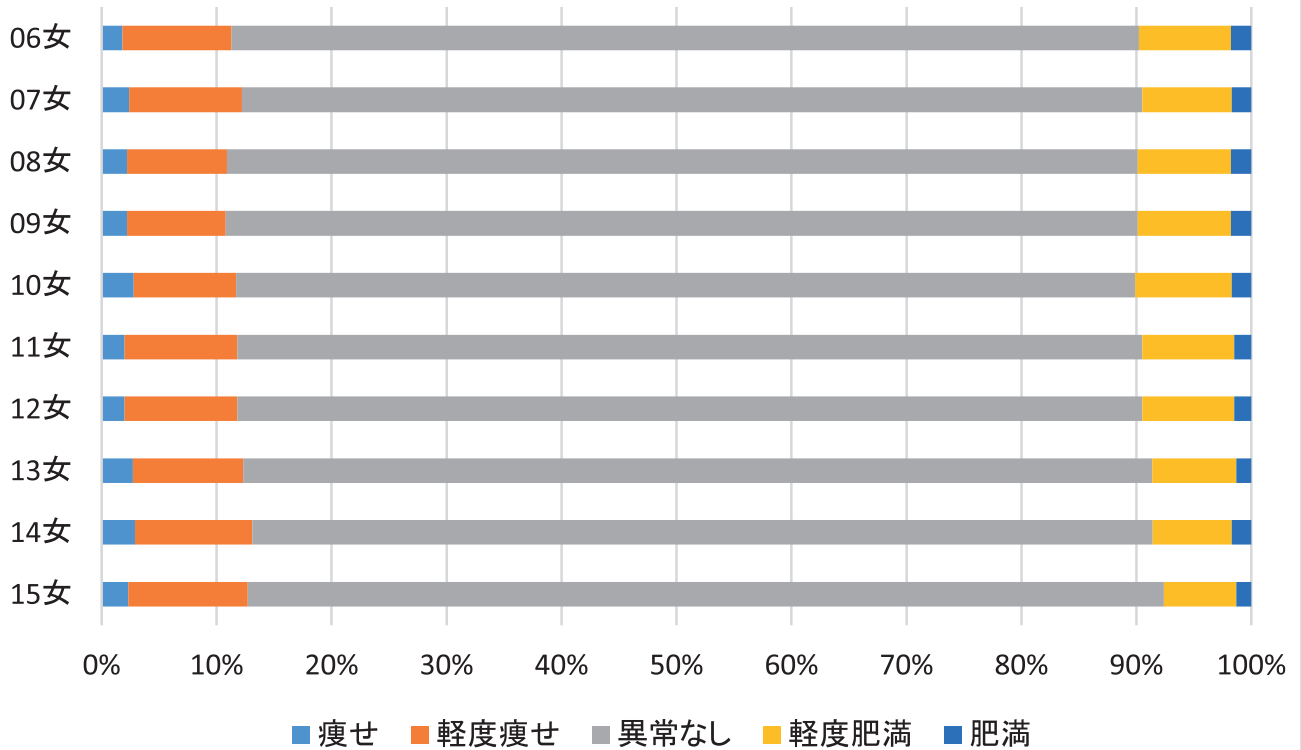
留学生	対象者数	受診者数 (率%)	有所見者数 (率%)	精密検査
	56	56 (100.0)	1 (1.8)	1

精密検査1名のうち名は「左中肺野結節状陰影」のため医療機関受診し「異常なし」だった。

BMI 10年間の推移（男子学生）



BMI 10年間の推移（女子学生）



5. 職員定期健康診断

1) 日程

検査日	時間	対象部局	対象者
4月28日(火)	6:45~8:30	附属幼稚園 附属小学校 附属中学校	全員
7月27日(月) ~8月7日(金)	8:45~9:00	附属特別支援学校	全員
8月25日(火)	8:30~10:00	農学部 連合農学研究科 寒冷フィールド(滝沢地区)	男性職員
	10:00~11:00		女性職員
8月26日(水)	8:30~10:00	工学部	男性職員
	10:00~11:00		女性職員
8月27日(木)	8:30~10:15	研究交流部 財務部 地域防災研究センター 平泉文化研究センター 教育推進機構 入試センター 教員養成支援センター 保健管理センター RI総合実験センター 地域連携推進機構 研究推進機構 情報基盤センター 三陸復興推進機構 寒冷フィールド(御明神地区)	男性職員
	10:15~11:00		女性職員
9月24日(木)	8:30~10:00	総務企画部 技術部 教育学部	男性職員
	10:00~11:00		女性職員
9月25日(金)	8:30~9:30	役員 監査室 学務部 人文社会科学部	女性職員
	9:30~11:00		男性職員

2) 検査項目(男女共通)

(1) 34歳以下及び36歳~39歳の者

身長、体重、視力、血圧、尿(糖、蛋白、潜血)、血液(中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール、貧血、肝機能(GOT、GPT、 γ -GTP)、血糖)、胸部X線撮影、聴力、腹囲、内科

(2) 35歳の者

(1)の項目に、心電図が加わる。

(3) 40歳以上の者

(2)の項目に、胃部X線撮影、便潜血反応が加わる。

3) 学内健診・人間ドック等の受診者数

	対象者	受 診 内 訳		受 診 者 数 (率)	
		学内健診 受診者数	人間ドック・ 他医療機関 受診者		
上 田 キ ャ ン パ ス 等 事 業 場	役員・総務企画部・評価室・ 男女共同参画推進室	51	39	12	51 (100.0)
	研究交流部・研究推進機構・地域連携推進機構・地域 防災研究センター・平泉文化研究センター・情報基盤センター	103	94	9	103 (100.0)
	財 務 部	45	39	4	43 (95.6)
	学務部・保健管理センター・入試センター	84	72	8	80 (95.2)
	人 文 社 会 科 学 部	72	52	15	67 (93.1)
	教 育 学 部	100	71	24	95 (95.0)
	工 学 部	183	159	20	179 (97.8)
	農学部・連大・寒冷FSC (上田キャンパス)	161	134	24	158 (98.1)
	技術部 (上田キャンパス)・RI総合実験センター	59	55	4	59 (100.0)
	三陸復興 (釜石、大船渡、宮古、久慈地区)	21	20	1	21 (100.0)
附 属 幼 稚 園 事 業 場	12	12	0	12 (100.0)	
附 属 小 学 校 事 業 場	38	36	2	38 (100.0)	
附 属 中 学 校 事 業 場	32	28	4	32 (100.0)	
附 属 特 別 支 援 学 校 事 業 場	37	37	0	37 (100.0)	
寒冷フィールド (滝沢地区) 事業場	14	14	0	14 (100.0)	
寒冷フィールド (御明神地区) 事業場	13	13	0	13 (100.0)	
合 計	1025	875	127	1002 (97.8)	

*雇入時健診受診のため定期健康診断を省略した者は対象者に含まないこととする。

4) 尿検査 (人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く)

性 別	受診者数	尿 蛋 白	尿 潜 血	尿 糖
		有所見者数 (率)	有所見者数 (率)	有所見者数 (率)
男	562	6 (1.1)	15 (2.7)	13 (2.3)
女	280	0 (0.0)	9 (3.2)	1 (0.4)
計	842	6 (0.7)	24 (2.9)	14 (1.7)

5) 貧血検査（人間ドック・他の医療機関受診者を除く）

性別	受診者数	血色素量	赤血球数	貧血
		有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）
男	562	34（6.0）	70（12.5）	13（2.3）
女	293	39（13.3）	28（9.6）	37（12.6）
計	855	73（8.5）	98（11.5）	50（5.8）

6) 肝機能検査（人間ドック・他の医療機関受診者を除く）

性別	受診者数	G O T	G P T	γ -GTP	肝機能異常
		有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）
男	562	117（20.8）	173（30.8）	160（28.5）	139（24.7）
女	293	18（6.1）	22（7.5）	22（7.5）	29（9.9）
計	855	135（15.8）	195（22.8）	182（21.3）	168（19.6）

7) 脂質検査（人間ドック・他の医療機関受診者を除く）

性別	受診者数	LDLコレステロール	HDLコレステロール	中性脂肪	脂質異常
		有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）
男	562	302（53.7）	45（8.0）	145（25.8）	260（46.3）
女	293	106（36.2）	6（2.0）	14（4.8）	65（22.2）
計	855	408（47.7）	51（6.0）	159（18.6）	325（38.0）

8) 血糖検査・胸部X線・血圧（人間ドック・他の医療機関受診者等を除く）

性別	血糖検査		胸部X線間接撮影		血圧測定	
	受診者数	有所見者数（率）	受診者数	有所見者数（率）	受診者数	有所見者数（率）
男	562	146（26.0）	560	9（1.6）	562	83（14.8）
女	293	28（9.6）	288	1（0.3）	296	18（6.1）
計	855	174（20.4）	848	10（1.2）	858	101（11.8）

9) 便潜血・胃・心電図（人間ドック・他の医療機関受診者等を除く）

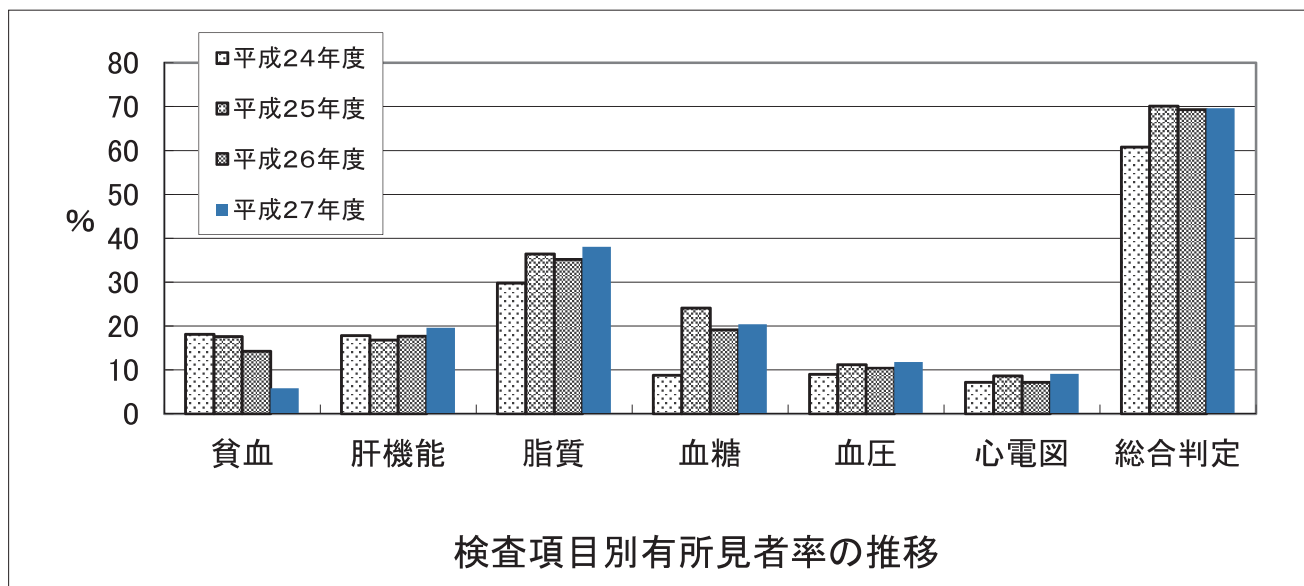
性別	便潜血検査		胃検査		心電図	
	受診者数	有所見者数（率）	受診者数	有所見者数（率）	受診者数	有所見者数（率）
男	381	23（6.0）	357	78（21.8）	425	28（6.6）
女	136	8（5.9）	126	33（26.2）	177	27（15.3）
計	517	31（6.0）	483	111（23.0）	602	55（9.1）

10) 総合判定（人間ドック・他の医療機関受診者等を除く） 11) 事後指導

性別	総合判定	
	受診者数	有所見者数（率）
男	562	439（78.1）
女	296	158（53.4）
計	858	597（69.6）

性別	対象者数	実施数（率）
男	474	473（99.8）
女	190	190（100.0）
計	664	663（99.8）

12) 検査項目別有所見者率の推移



6. 特殊健康診断等

	対 象	実施日	該当者	結 果	受診率 (%)		
電 離 放 射 線	RI総合実験センター 及び動物病院職員 学生	新規	4月7日	6名	5名：異常なし 1名：有所見（管理T）	100.0	
	動物病院 職員	新規	6月10日	1名	異常なし	100.0	
	RI総合実験センター 学生	新規	6月23日	1名	異常なし	100.0	
	RI総合実験センター 及び動物病院 職員	第1回継続	6月24日	51名	全員が異常なし	100.0	
	RI総合実験センター 及び動物病院 学生	第1回継続	6月24日	101名	76名：異常なし 2名：有所見（管理T）	100.0	
	特別除染地域 職員	第1回継続	6月24日	6名	全員が異常なし	100.0	
	動物病院職員 学生	新規	10月9日	33名	32名：異常なし 1名：有所見（管理T）	100.0	
	RI総合実験センター 学生	新規	10月30日	2名	1名：異常なし 1名：有所見（管理T）	100.0	
	RI総合実験センター 職員	新規	11月5日	1名	異常なし	100.0	
	RI総合実験センター、動物病 院及び特別除染地域 職員	第2回継続	12月18日	58名	全員が異常なし	100.0	
	RI総合実験センター 及び動物病院 学生	第2回継続	12月18日	125名	123名：異常なし 2名：有所見（管理T）	100.0	
	RI総合実験センター 職員	新規	3月14日	4名	3名：異常なし 1名：有所見（管理T）	100.0	
	RI総合実験センター 学生	新規	3月14日	25名	23名：異常なし 2名：有所見（管理T）	100.0	
有 機 溶 剤	年間一定量以上の 使用（見込み）の ある研究室	職員	第1回	7月28、29日	15名	13名：異常なし 1名：有所見（管理R） 1名：〃（管理T）	100.0
		学生	第1回		105名	97名：異常なし 7名：有所見（管理R） 1名：〃（管理T）	100.0
		職員	第2回	1月19、20日	15名	13名：異常なし 1名：有所見（管理R） 1名：〃（管理T）	100.0
		学生	第2回		108名	99名：異常なし 6名：有所見（管理R） 1名：〃（管理T） 2名：未了	98.1
特定化学物質	年間一定量以上の 使用（見込み）の ある研究室、過去 にベンゼンを使用 していた者	職員	第1回	7月28、29日	25名	22名：異常なし 2名：有所見（管理R） 1名：〃（管理T）	100.0
		学生			90名	82名：異常なし 7名：有所見（管理R） 1名：〃（管理T）	100.0
		職員	第2回	1月19、20日	24名	21名：異常なし 3名：有所見（管理R）	100.0
		学生			88名	80名：異常なし 6名：有所見（管理R） 2名：未了	97.7
V D T 作 業	V D T作業従事者	職員	-	1月21日	25名	20名：異常なし 5名：有所見（管理R）	100.0
振 動 騒 音	チェーンソー等使 用による身体に著 しい振動を与える 業務に従事する者	職員	第1回	8月19日	9名	5名：異常なし 2名：有所見（管理B） 2名：〃（管理R）	100.0
		職員	第2回	2月16日	9名	5名：異常なし 2名：有所見（管理B） 2名：〃（管理R）	100.0

(注)管理T：有所見の原因は当該業務以外であり、治療が必要

管理R：有所見の原因は当該業務以外にあるが、当該業務に従事することで増悪のおそれがあり、就業制限が必要

管理B：有所見の原因は当該業務にあり、検診または就業制限が必要

7. その他の健康診断

	対 象		実施日	該当者	結 果	
腸内細菌検査	附属学校及び宿泊施設の炊事場において給食の業務に従事する者 ※上記の他、行事等により大量調理をする者には随時検査を実施した	職員	-	毎月（附属校園は月2回）	4～9月：7名 10～2月：6名	全員が異常なし
寄生虫卵検査		職員		9月2日及び3月2日	9月：7名 3月：6名	全員が異常なし
ノロウイルス検査		職員		10～3月にかけて毎月1回	6名	全員が異常なし
海外派遣労働者の健康診断	海外に6ヶ月以上渡航する者	職員	-	8月25日、26日、3月1日	3名	全員が異常なし
じん肺健康診断	粉じん作業従事者	職員	-	2月4日～2月23日	6名	全員が異常なし
平成27年度定期健康診断（人間ドック・他の医療機関受診者）	-	職員	-	4～3月	117名	10名：異常なし 24名：有所見（D1） 68名：有所見（D2） 15名：有所見（D3）
平成27年度定期健康診断	特定業務従事者	職員	第2回	2月15、16日	130名	48名：異常なし 17名：有所見（D1） 21名：有所見（D2） 14名：有所見（D3） 30名：未了
子宮がん検診	35歳以上の女性職員で希望者	職員	-	7～1月	124名	-
乳がん検診	35歳以上の女性職員で希望者	職員	-	7～2月	145名	-

注D1：平常の生活でよいが、医師による直接の医療行為が必要な者

D2：平常の生活でよいが、定期的に医師の観察指導が必要な者

D3：平常の生活でよく、医師による直接又は間接の医療を必要としない者

8. 救護活動

	件名	開催月日	従事者数	救護件数(人)
1	平成27年度入学式	4/7(火)	2	2
2	第58回盛岡・つなぎ間ロードレース大会	5/23(土)	2	5
3	平成28年度工学部編入学試験	6/25(木)、26(金)	4	0
4	平成28年度農学部編入学試験	7/3(金)	4	0
5	平成28年度工学研究科博士前期課程推薦入学試験	7/7(火)	4	0
6	放送大学単位認定試験	7/24(金)、7/28(火)~30(木)	各4	0
7	盛岡さんさ踊り(岩大チーム参加)	8/3(月)	2	2
8	平成27年度第1回岩手大学オープンキャンパス	8/6(木)	4	4
9	平成27年度教員免許状更新講習	8/7(金)、8/10(月)~11(火)	各4	0
10	平成27年度岩手大学ぱるんkids'サマースクール	8/10(月)~11(火)	各4	0
11	平成27年度10月入学及び平成28年4月大学院入学者選抜第1期(人文社会科学部修士課程、農学研究科修士課程)	8/25(火)~26(水)	各4	0
12	平成28年度アドミッションオフィス入学試験第1次選考	8/31(月)~9/1(火)	各4	0
13	平成27年度10月入学及び平成28年4月大学院入学者選抜第1期(工学研究科博士前期および後期課程)	9/1(火)~3(木)	各4	0
14	平成27年度10月入学(連合農学研究科)および平成28年度大学院入学者選抜第1期(連合農学研究科)	9/3(水)	4	0
15	平成28年度農学部獣医学課程学士編入学1次試験	9/25(金)	4	1
16	平成28年度人文社会科学部編入学選抜試験	10/13(火)	4	0
17	平成27年度第2回岩手大学オープンキャンパス	10/17(土)	2	0
18	岩手大学大学祭	10/17(土)、18(日)	各1	13
19	平成28年度農学部獣医学課程学士編入学2次試験	10/30(金)	4	1
20	平成28年度アドミッションオフィス入学試験第2次選考、大学院教育学研究科(修士課程)第1期入学者選抜	10/31(土)	1	0
21	平成28年度推薦入学Ⅰ・社会人入学試験	11/25(水)	4	0
22	平成28年度大学入試センター試験	1/16(土)・1/17(日)	各7	8
23	放送大学単位認定試験	1/22(金)、26(火)~28(木)	各4	0
24	平成28年度大学院入学者選抜第2期(人文社会科学部修士課程、工学研究科博士前期課程)	1/26(火)~27(水)	各4	0
25	平成28年度大学院入学者選抜第2期(教育学研究科修士課程)	1/27(火)	4	0
26	平成28年度大学院入学者選抜第2期(農学研究科修士課程)	1/25(月)~26(火)	各4	0
27	平成28年度推薦入学Ⅱ(農学部)および大学院入学者選抜第2期(工学研究科博士後期課程)	1/28(木)	4	0
28	附属中学校スキー教室	2/17(水)~19(金)	各1	9
29	平成28年度大学院入学者選抜第2期(連合農学研究科)	2/18(木)	4	0
30	個別学力検査・前期日程	2/25(木)	各7	2
		2/26(金)	各6	
31	個別学力検査・後期日程	3/12(土)	各7	0
32	卒業・修了式	3/23(水)	2	0
	合計			47

■ : 入試関係救護

9. 健康教育・増進活動

1) 健康クラブ

学生や職員の実践的健康教育の場として、平成12年度から「健康クラブ」を開催している。地域貢献として一般住民にも開放し、学生や職員と地域住民の交流にも役立てている。

(1) 太極拳教室

平成13年度に開始した「太極拳教室」は、学生センターA棟1階のエントランスホールで毎週木曜日の17時30分から19時まで開催しており、日本武術太極拳連盟公認指導員である立身センター長が担当している。

平成27年度に一度でも参加した人数は21名で、内訳は、学生5名（男2名、女3名）、教職員3名（男0名、女3名）、元教職員を含む地域住民13名（男2名、女11名）、新規参加者は6名で、内訳は、学生3名、地域住民3名であった。10回以上参加している人は11名、最も参加回数の多い人は36回であった。

毎月1回19時から20時まで、同じく日本武術太極拳連盟公認指導員である阿部智恵子先生に「伝統太極拳」の指導をしていただいた。

月別の開催回数と参加者数を表に示した。年間の開催回数は37回で、参加者数は293名であった。一回の開催あたり平均参加者数は7.9人であった。

虚弱等で激しい運動ができない学生に「健康・スポーツ科目」の授業として太極拳を提供しているが、本年度は前期2名、後期1名の参加があり3名とも単位取得に至った。

表 平成27年度月別健康クラブ太極拳教室開催回数と参加者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開催回数	4	4	4	3	3	2	3	4	2	2	2	4	37
参加者数	38	34	40	26	24	15	28	22	8	18	15	25	293

(2) フラダンス教室

今年度新たに「フラダンス教室」を開催した。学生センターA棟1階のエントランスホールで5/30(土)10時～12時45分開催した。参加者は教職員および地域住民7名（女性）、講師は中野千春先生。（広島県出身）来県の子定に合わせて開催した。3.11東日本大震災の直後、海外で宮澤賢治の「雨ニモ負ケズ」の詩の一部にメロディーをつけたチャリティーソングがつくられ、その曲にハワイのフラダンスの先生が振り付けしたものを中心に指導していただいた。また今後はDVD、CDにより継続を考えている。

(3) 健康セミナー

主にグループ単位での健康教育として、心配蘇生法、応急処置、健康作りのため食事や運動などのセミナーを実施している。

平成27年度は4回122名を対象に実施した。

No.	期日	時間	会場	対象	受講人数	内 容	スタッフ人数
1	27. 4. 2 (木)	13:00～ 14:30	工学部5号館、200番講義室	応用化学科教職員とTA	43	心肺蘇生法、AED設置場所、その他の救急法（止血法、熱傷処置、RICE処置他）	医師：1 看護：1
2	27. 5. 12 (火)	18:00～ 19:30	エントランスホール	ワンダーフォーゲル部	35	心肺蘇生法、止血法、包帯法（固定法）、搬送法等、RICE処置他、虫刺され豆知識、急性高山病、熱中症	医師：1 看護：3
3	27. 6. 22 (月)	18:00～ 19:30	エントランスホール	ツキノワグマ研究会	8	心肺蘇生法、止血法、包帯法（固定法）、搬送法、RICE処置他、虫刺され豆知識、ヘビへの対処法、マダニについて、熱中症	医師：1 看護：3
4	27. 9. 29 (火)	13:00～ 14:30	工学部、1号館12番講義室	応用化学科教職員とTA	36	心肺蘇生法、AED設置場所、その他の救急法（止血法、熱傷処置、RICE処置他）	医師：1 看護：1
計					122		

2) 禁煙支援

(1) 世界禁煙デーのイベント

世界禁煙デーと禁煙週間のイベントとして、ポスター・書籍の展示を行った。

2008年の敷地内禁煙開始から7年が経過し、敷地内禁煙以前の状況や敷地内禁煙までの経緯を知らない学生が大多数になったことから、2000年からの禁煙対策の取組みの写真等の掲示をした。

大学周辺的环境整備は安全衛生管理室の企画した「学外通勤・通学路の清掃活動」と合同で、吸い殻拾いや喫煙者へのマナー指導をおこなった。

主な活動内容

5/30～ エントランスホールにポスター掲示

6/1～6/5 大学周辺ゴミ拾い・環境整備（安全衛生管理室企画）



(2) 禁煙支援数と1年後の禁煙継続者数

年 度	学 生		職 員		合計 (人)
	男	女	男	女	
2015年度	12	0	1	0	13

1年後に禁煙継続状況を確認しているが、回答を得られた3名中、禁煙継続者は2名であった。

3) 性の健康教育活動 (H27)

6月のHIV検査普及週間、12月1日の世界エイズデーのイベントとして、エントランスホールに、エイズに関するポスターや資料等を掲示し、パンフレット、コンドーム等の配付を行った。

6月 HIV検査普及週間



12月 HIV検査普及週間



4) 学生相談室グループセミナー

<前期>

第1回 心理テストによる自己分析

日時：5月21日 16:30~17:00

場所：学生センターG28講義室

参加学生：13名

内容：VPI職業興味検査、YG性格検査の実施

第2回 聴き上手になるために

日時：6月25日 16:30~18:00

場所：学生センターG28講義室

参加学生：5名

内容：傾聴の基礎的実習

第3回 映画をとおして青年期の心の動きを考える

日時：7月30日 16:30~19:00

場所：学生センターG29講義室

参加学生：7名

内容：「17歳のカルテ」(James Mangold監督、2000)の鑑賞

<後期>

第1回心理テストによる自己分析

日時：12月4日 16:30~18:00

場所：学生センターG28講義室

参加学生：14名

内容：VPI職業興味検査、YG性格検査の実施

第2回 心理テストによる自己分析

日時：1月26日 16:30~18:00

場所：学生センターG28講義室

参加学生：13名

内容：VPI職業興味検査、YG性格検査の実施

第3回 映画をとおして青年期の心の動きを考える

日時：2月9日 16:30~19:00

場所：学生センターG29講義室

参加学生：6名

内容：「17歳のカルテ」(James Mangold監督、2000)の鑑賞

5) コミュニケーショングループ（学生特別支援室と共催）

<前期>

第1回 オリエンテーション

日時：5月26日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室

参加学生：8名

内容：グループの目的やルールの確認、自己紹介、今後の活動について話し合い

第2回 散策

日時：6月2日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室～岩大植物園、北水の池

参加学生：4名

内容：大学の構内をお花見しながら散策

第3回 調理

日時：6月9日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟特別支援室

参加学生：7名

内容：ホットケーキ作り

第4回 グループワーク

日時：6月16日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室

参加学生：7名

内容：パーソナルスペース測定、関係による座る位置、適切な声のボリューム等

第5回 スポーツ

日時：6月23日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室

参加学生：5名

内容：卓球

第6回 グループワーク

日時：6月30日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室

参加学生：9名

内容：「自分の中のスター」趣味や好きなこと、自慢できることの紹介

第7回 調理

日時：7月7日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟特別支援室

参加学生：6名

内容：かき氷作り

第8回 グループワーク

日時：7月14日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟学生相談室

参加学生：6名

内容：コンセンサスゲーム「無人島」

第9回 創作活動

日時：7月21日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室
参加学生：2名
内容：ハスの実手芸

第10回 ゲーム

日時：7月28日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟特別支援室
参加学生：2名
内容：トランプ、オセロ、人生ゲーム

第11回 前期のふりかえり、調理

日時：8月4日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟特別支援室
参加学生：7名
内容：焼きそば作り

<後期>

第1回 オリエンテーション

日時：10月20日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室
参加学生：8名
内容：グループの目的やルールの確認、自己紹介、今後の活動について話し合い

第2回 散策

日時：10月27日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室～工学部周辺
参加学生：6名
内容：大学の構内を紅葉狩りしながら散策

第3回 グループワーク

日時：11月10日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室
参加学生：7名
内容：アサーション

第4回 調理

日時：11月17日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟特別支援室
参加学生：7名
内容：クレープ作り

第5回 スポーツ

日時：11月24日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室
参加学生：3名
内容：卓球

第6回 グループワーク

日時：12月1日 15:00～16:00 場所：学生センターA棟会議室
参加学生：7名
内容：サイコロトーク

第7回 グループワーク

日時：12月8日 15：00～16：00 場所：学生センターA棟特別支援室
参加学生：7名
内容：コンセンサスゲーム「100万円を一日で使い切る方法」

第8回 創作活動

日時：12月15日 15：00～16：00 場所：学生センターA棟会議室
参加学生：3名
内容：イラスト描き

第9回 クリスマス会 調理

日時：12月22日 15：00～16：00 場所：学生センターA棟特別支援室
参加学生：5名
内容：お好み焼きとケーキ作り

第10回 グループワーク

日時：1月19日 15：00～16：00 場所：学生センターA棟会議室
参加学生：3名
内容：冬休みの思い出について

第11回 ゲーム

日時：1月26日 15：00～16：00 場所：学生センターA棟特別支援室
参加学生：2名
内容：トランプ、オセロ、人生ゲーム

第12回 フリートーク

日時：2月2日 15：00～16：00 場所：学生センターA棟特別支援室
参加学生：2名
内容：最近起こった楽しいこと、うれしいこと等

第13回 後期のふりかえり、調理

日時：2月23日 15：00～16：00 場所：学生センターA棟特別支援室
参加学生：5名
内容：焼きそば作り

6) 保健管理センター通信

教員と保健管理センターとの連絡・協力体制の強化と教員の健康維持・増進を目的に、教員全員に「保健管理センター通信」と題して定期的にメールで情報発信をしている。平成27年度は第30号、第31号を発信し、学内電子掲示板に以下の資料を掲示した。

11月：発達障害学生の修学指導の事例と留意点

教員との関係に悩む学生の相談事例とお願い

平成27年10月までの学生の災害発生状況

7) 講義・講演 (学内)

1. 講 義

立身政信 全学共通教育科目「健康スポーツA」(分担)
全学共通教育科目「これからの健康科学」(分担)
農学部専門科目「農学のための倫理学」(分担)
農学部専門科目「公衆衛生学」

早坂浩志 全学共通教育科目「心の理解」
全学共通教育科目「健康スポーツA」(分担)
全学共通教育科目「これからの健康科学」(分担)
大学院人文社会科学研究所「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」(分担)
大学院人文社会科学研究所「臨床心理面接Ⅰ」

立原聖子 全学共通教育科目「心の理解」
全学共通教育科目「健康スポーツA」(分担)

2. 講 演

立身政信 4月3日 新採用者研修
7月30日・11月27日 衛生管理者受験準備講習会
3月14日 放射線同位元素等の取扱い及び管理に従事する者の教育訓練

早坂浩志 4月2日 新採用者研修

立原聖子 5月22日 工学部応用化学・生命工学科基礎ゼミ新入生合宿研修事前指導
5月28日 平成27年度岩手大学メンタルヘルス研修「ラインケア研修」
6月10日 次世代育成サポーター養成講座

10. 他部局との協働共催及び地域貢献

1) 協働共催

(1) H27年度AED講習会

平成17年3月にAED（自動体外式除細動器）を上田地区3台、附属小学校・中学校・養護学校に各1台設置したことにより、17年度から教職員対象にAED講習会を実施している。この講習は、盛岡中央消防署上田出張所の協力により実施し、修了者には普通救命講習Ⅱ修了証が交付されている。27年度は2回実施し16名が修了した。尚、この事業は安全衛生管理室との共催実施となっている。延べ300名修了している。（※現在のAED設置数15台：上田地区7台、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、特別支援学校、滝沢農場、滝沢演習林、御明神総合施設、釜石キャンパス各1台）

No.	期 日	時 間	受講人数	会 場
1	27. 8. 20(木)	9：30～13：30	9	盛岡中央消防署上田出張所
2	27. 9. 8(火)	9：30～13：30	7	盛岡中央消防署上田出張所
計			16	

(2) 教育推進機構、学務部との協働・協力

担任教員と保健管理センター教員連絡会

日時：11月11日 15：00～16：30

会場：学生センターB棟1階多目的室

- 内容：1. 学生の実験・実習中の事故の防止
 2. 発達障害学生の修学指導の留意点
 3. 障害者差別解消法施行に伴う大学教育の変化
 4. 意見交換

2) 地域貢献

(1) H27年度実習の受け入れ

実習生所属先	実習生人数	実習期日	実習内容
岩手医科大学医学部	4	平成27年5月～7月	公衆衛生学実習
岩手看護短期大学 専攻科地域看護学専攻	6	平成27年11月19日 9：30～16：15	産業保健実習
岩手県立大学看護学部	6	平成27年6月19日 9：30～16：15	産業保健実習
岩手県立大学看護学部	4	平成27年12月4日 9：30～16：15	産業保健実習
計	20		

(2) ヘルスプロモーション研究会

第1回 平成27年5月16日（土） 10：00～13：00 参加12人

1. 近況報告 雫石町包括ケアシステムの進行状況
2. 報告
「震災4年が経過して見える陸前高田市の“課題”と“リスク”
～3.11後、54回の未来図会議で描き続けてきた陸前高田の未来～」
報告者 佐々木亮平氏
(岩手医科大学 いわて東北メディカル・メガバンク機構 地域住民コホート分野)
3. 報告
体験してみよう『脳活』！
～脳活性化プログラム シナプソロジー～
報告者 釜澤俊一氏
(シナプソロジー普及会認定インストラクター、はぴらき健幸塾・脳活笑講座講師)
4. 情報交換

第2回 平成27年7月18日（土） 10：00～13：00 参加17人

1. 報告
「地域に出よう『地域健康づくり連絡会』3年目を迎えて」
報告者 熊谷多美子氏 (滝沢市高齢者支援課長兼保健師長)
2. 報告
「身近な人間関係に役立つアサーティブ (自分も相手も大切にしたい自己表現)」
「ライアーの音色による癒し体験」
(ライアーは、ギリシャ時代から治療に使われていた美しい音色の豎琴です。「千と千尋の神隠し」の主題歌で使われました)
報告者 阿部英子氏
(ハロードリームいわて事務局長、ファイナンシャルプランナー、アサーティブジャパン会員)
3. 情報交換

第3回 平成27年9月12日（土） 10：00～13：00 参加10人

1. 報告
「高校生の生と性に関する調査」から見えてきたイマドキの高校生の本音と実態
報告者 佐藤 卓 氏
岩手県環境保健研究センター 首席専門研究員兼地球科学部長
いわて思春期研究会 副会長講話
2. 報告
「ヨガ (メディカルヨガ) の体験と活動報告」
報告者 紺野真理子氏
いわてよが主催、代替医療ケアーメディカルヨガチーム東北 窓口
3. 情報交換

第4回 平成27年11月28日（土） 10：00～13：00 参加12人

1. 事例報告

「矢巾町の保健福祉現場における連携」

報告者 菊池由紀 氏

矢巾町生きがい推進課 課長（保健師）

2. 講話と体験

太極拳「時空」と私の宇宙観

報告者 吉川一郎氏

楊名時健康太極拳 準師範、前高校理科教員 地学担当

3. 情報交換

第5回 平成28年1月24日（日） 10：00～13：00 参加10人

1. 事例報告

地域包括ケア・地域医療構想の動向と健康づくり・医療介護のネットワーク形成
— 雫石町を事例にヘルスプロモーションの視点から検討する —

報告者 栃内圭子氏（岩手県県央保健所医務主幹）

田沢光正氏（雫石町データヘルス計画策定委員会委員）

立身政信氏（雫石町行政改革推進委員会委員、同環境審議会委員）

2. 講話と体験

「スピリチュアルヒーリングの世界」

報告者 軍司守俊氏（ヒーリング・プロデューサー、ラ・ムーリア主宰）

3. 情報交換

第6回 平成28年3月19日（土） 10：00～13：00 参加12人

1. 報告

「軽米町におけるメタボリック症候群対策、特に特定保健指導の現状と課題」

報告者 工藤晃子氏（軽米町健康福祉課健康づくりグループ）

2. 報告

「参加してもらうための企画を立てる手順とは？」

報告者 村山博子氏（有限会社ティーシーアイ代表取締役）

3. 講話・実技

ミニ体験（30分程度）

（ヨーガの）呼吸法

担当 田沢光正氏（日本ヨーガ学会認定教授）

4. 情報交換

Ⅲ 平成27年度保健管理センターの現況

1. 保 健 委 員 会
2. 保 健 管 理 セ ン タ ー 運 営 委 員 会
3. 学 内 委 員 会 所 属 状 況
4. 学 会 ・ 研 修 会 等 出 席 状 況
5. 保 健 管 理 セ ン タ ー 職 員 名 簿

1. 保健委員会

1) 委員会名簿 (H27)

区 分	氏 名	所 属 部 局 等
委 員 長	丸 山 仁	理事 (教育・学生担当)
委 員	立 身 政 信	保健管理センター長
〃	浅 沼 道 成	人文社会科学部
〃	奥 野 雅 子	人文社会科学部
〃	鎌 田 安 久	教育学部
〃	山 本 獎	教育学部
〃	高 木 浩 一	工学部
〃	上 野 和 之	工学部
〃	喜 多 一 美	農学部
〃	原 科 幸 爾	農学部
〃	八 田 弘	学務部長

2) 開催記録

今年度は開催なし。

2. 保健管理センター運営委員会

1) 委員会名簿 (H27)

区 分	氏 名	所 属 部 局 等
委 員 長	立 身 政 信	保健管理センター長
委 員	立 原 聖 子	保健管理センター専任教員
〃	浅 沼 道 成	人文社会科学部
〃	奥 野 雅 子	人文社会科学部
〃	鎌 田 安 久	教育学部
〃	上 濱 龍 也	教育学部
〃	一ノ瀬 充 行	工学部
〃	平 塚 貞 人	工学部
〃	宇 塚 雄 次	農学部
〃	宮 崎 雅 雄	農学部
〃	八 田 弘	学務部長

2) 開催記録

第1回 保健管理センター運営委員会

開催日時：平成27年5月7日（木）15：00～

開催場所：学生センターA棟会議室

議 題：1. 教員の異動について
2. 平成26年度決算及び平成27年度予算配分について
3. その他

報 告：1. 平成26年度健康相談利用状況について
2. 平成26年度学生相談利用状況について
3. その他

第2回 保健管理センター運営委員会

開催日時：平成28年2月4日（木）9：00～

開催場所：学生センターB棟多目的室

議 題：1. 平成28年度学生定期健康診断日程及び検査項目（案）について
2. 平成28年度学生特殊健康診断日程（案）について
3. その他

報 告：1. 平成27年度学生定期健康診断受診状況について
2. 平成27年度学生特殊健康診断の実施状況について
3. その他

3. 学内委員会所属状況

- 立身政信：保健管理センター運営委員会 学生特別支援室運営委員会 全学施設系会議 保健委員会 安全衛生委員会 放射線安全委員会 遺伝子組換え生物等安全委員会 バイオセーフティ委員会 毒物等管理委員会 動物実験委員会 人体及びヒト試料研究倫理審査委員会
- 早坂浩志：保健管理センター運営委員会 学生特別支援室運営委員会 全学施設系会議 ハラスメント等防止委員会 三陸復興推進機構生活支援部門心のケア班 人文社会科学部こころの相談センター運営委員会
- 立原聖子：保健管理センター運営委員会 学生特別支援室運営委員会 全学施設系会議 三陸復興推進機構生活支援部門心のケア班 男女共同参画推進室企画会議

4. 学会・研修会等出席状況

平成27年度 研修関係開催日順

No.	開催月日	件名	出席者	会場
1	5/9	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市）
2	5/16	ヘルスプロモーション学習会*	立身 政信	岩手大学学生センター会議室
3	5/16～18	第33回日本学生相談学会	早坂 浩志 立原 聖子	広島修道大学（広島市）
4	5/16	平成27年度盛岡地区保健師会総会・研修会	長沼 敦子 茅平 鈴子 阿部 智子	盛岡市都南文化会館
5	6/7	第13回思春期保健相談士学術研究大会	阿部 智子	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）
6	6/3	イノベーションフェア&セミナー2015夏	長沼 敦子 相澤 いよ	アイーナ
7	7/10	海外で学ぶ人／働く人の健康支援講演会	阿部 智子	羽田空港国際線旅客ターミナル4F（東京都）
8	7/11	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市）
9	7/16～17	第53回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会	立身 政信 早坂 浩志 長沼 敦子 阿部 智子	仙台ガーデンパレス 東北大学（当番校）
10	7/18	ヘルスプロモーション学習会*	立身 政信	岩手大学学生センター会議室
11	9/1	岩手県立大学障がい学生支援研修会	立原 聖子 新村 暁	岩手県立大学
12	9/9～10	第53回全国大学保健管理研究集会	立身 政信 早坂 浩志 立原 聖子 長沼 敦子 茅平 鈴子 阿部 智子	盛岡市民文化ホール「マリオス」 岩手大学（当番校）
13	9/12	ヘルスプロモーション学習会*	立身 政信	岩手大学学生センター会議室
14	9/17～20	第70回日本体力医学会	立身 政信	和歌山県民文化会館（和歌山市）
15	9/18	日本心理臨床学会第34回秋季大会	早坂 浩志	神戸国際会議場（神戸市）
16	10/20～23	第64回日本農村医学会学術総会	立身 政信	秋田キャッスルホテル（秋田県）
17	11/6～8	第54回思春期保健セミナーコースⅡ	茅平 鈴子	関内新井ホール（横浜市）
18	11/6	盛岡市立病院研修会	立原 聖子 新村 暁	盛岡市立病院研修室
19	11/7	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市）
20	11/15～17	第53回全国学生相談研修会	早坂 浩志 立原 聖子 阿部 智子 後藤 勝利	東京国際フォーラム
21	11/25	データ分析セミナー	長沼 敦子	平和と労働センター（東京都）
22	11/28	ヘルスプロモーション学習会*	立身 政信	岩手大学学生センター会議室

23	12/3	摂食障害の理解と対応研修	阿部 智子	岩手県福祉総合相談センター
24	12/10	発達障がい学生の修学支援に関する学習会	立身 政信	岩手大学総合教育棟北桐ホール
25	1/9	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市）
26	1/20～23	第49回全国学生相談研究会議	早坂 浩志	作並温泉一の坊
27	1/24	ヘルスプロモーション学習会*	立身 政信	岩手大学学生センター会議室
28	2/6	H27もりおか女性センター市民団体支援事業講演会	阿部 智子	プラザおでって
29	3/5	第27回岩手公衆衛生学会学術集会	立身 政信 茅平 鈴子	岩手県歯科医師会館8020プラザ
30	3/17～18	第18回フィジカルヘルス・フォーラム	立身 政信 立原 聖子 長沼 敦子 阿部 智子	金沢市アートホール 北陸先端科学技術大学院大学（当番大学）
31	3/19	ヘルスプロモーション学習会*	立身 政信	岩手大学学生センター会議室

*詳細はP39参照

5. 保健管理センター職員名簿

職 名	所属部局等	備 考
センター長・教授	立身 政信	産業医
准 教 授	早坂 浩志	カウンセラー ※H27.7～教育推進機構へ異動 センター兼務となる
准 教 授	立原 聖子	カウンセラー
保 健 師	長沼 敦子	
保 健 師	茅平 鈴子	
保 健 師	阿部 智子	
安全衛生管理室	相澤 いよ	技術補佐員（衛生管理者） 平成26年4月1日～平成28年3月31日
カウンセラー（非）	豊田 洋子	平成23年10月～
カウンセラー（兼）	織田 信男	人文社会科学部

IV 第53回全国大学保健管理研究集会当番校報告

第53回全国保健管理研究集会 を終えて

平成27年9月9日（水）～10日（木）マリオスを会場に
第53回全国大学保健管理研究集会を開催しました。

全国津々浦々から、多くの皆様のご参加をいただき、
盛会裡に開催できましたこと心より御礼申し上げます！

参加者 777名（2日間 延べ約1,500名）



テーマ ～健康を大学から地域へ 感謝とともに～

1日目

- 開会式
- 特別講演Ⅰ
- 特別講演Ⅱ
- 全国大学保健管理協会総会
- ランチョンセミナーⅠ、Ⅱ
- 教育講演Ⅰ
- 教育講演Ⅱ
- シンポジウムⅠ

2日目

- 研究発表
- ランチョンセミナーⅢ、Ⅳ
- シンポジウムⅡ
- 優秀演題賞表彰
- 閉会式



1

【1日目】

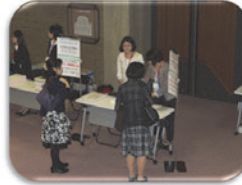
開始直前のスタッフ結団式

皆さんおはようございます♪
2日間の笑顔で
がんばりましょう！！



いよいよスタート！！

ランチョンセミナー
整理券配布



クロークコーナー



インフォメーションコーナー
3.11震災復興コーナー



2

当日登録受付



お問い合わせは総合受付へ！

当日受付or懇親会当日受付、
ただ今、真っ最中！



お知らせコーナー



企業展示ありがとうございました！



3

さて、大ホールでは。。。。

開始前のドキドキ！



いよいよ開会式スタート！



第53回全国大学保健管理研究集会

開会のあいさつ
運営副委員長立身政信 より
（岩手大学保健管理センター長）



主催者あいさつ
運営委員長 岩淵明より
（岩手大学学長）

4

特別講演Ⅰ 「岩手大学の震災復興の取組みと今後の展望」



演者 岩渕明 岩手大学学長



座長 丸山仁 岩手大学副学長



特別講演Ⅱ 「今を生きる」



演者 岩手大学卒業生の狩野亮さん
(パラリンピック金メダリスト！)



座長 立身政信 岩手大学保健管理センター長



5

全国大学保健管理協会 総会



ホワイエでのランチョン引き換えがはじまりました。。。。



メンタルヘルス研究会等のご本もどうぞ♪
秋田大学 苗村育郎先生と記念撮影！



裏では事務局大忙し。。。

6

ランチョンセミナーⅠ 「大学での禁煙推進～難所克服対策
国立大学法人保健管理施設協議会の活動を通じて」

座長 弘前大学 高梨信吾先生
演者 奈良女子大学 高橋裕子先生

大ホール



ランチョンセミナーⅡ 「ABC検診は何か問題か
—胃がんリスク評価に基づいた胃がん検診の可能性と問題点—」

座長 大分大学 工藤欣邦先生
演者 宮城県対がん協会がん検診センター 加藤勝章先生

小ホール



教育講演Ⅰ 「大学の国際化と保健管理」



座長 山形大学 富樫整先生
演者 岐阜大学 山本真由美先生

大ホール

大学の国際化による保健管理業務の様々な課題に対して、全国保健管理協会 国際連携委員会と国立大学法人保健管理施設協議会国際交流特別委員会両方の委員長でいらっしゃる山本先生より、必要と考えることのお話をいただきました。

教育講演Ⅱ 「大学生の性の健康問題への対応
～リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から～」

小ホール

座長 宮城教育大学 尾股健先生
演者 岩手県立大学 福島裕子先生

大学生の性の健康問題への対応は、専門家として正しい知識や選択肢を提示し、共感的に一緒に考え、今後の行動を自分で決めていけるような関わりをもち、その人自身の生き方への支援ですという有意義なお話をいただきました。



8

シンポジウム I 「健康教育～学生への健康教育から地域住民の健康支援へ～」

大ホール



司会 東北大学 木内喜孝先生
福島大学 渡辺 厚先生

シンポジスト 信州大学 塚原照臣先生
藤女子大学 藤井義博先生
岩手医科大学 佐々木亮平先生

9

3Fホワイエでの保健&看護情報交換コーナー♡



全国24大学および全国7地方保健看護部会の皆様からご協力いただきました！ありがとうございました♡

10

そして！皆様お待ちかねの“懇親会” in メトロポリタン盛岡



受付風景 ようこそ盛岡へ♪

さあ！スタートです♪

岩手のお酒をどうぞ！！
センタースタッフが直々にお酒の紹介を・・・♪

岩手大学の学生による盛岡さんさ踊りは最高ですネ！

1日目お疲れ様でした☆

11

【2日目】

最終日なので、クロークがいっぱい！



本日の午前中は、ポスターディスカッションへ。

ポスター審査会場は準備OK！

ポスター会場 ～展示ホール～

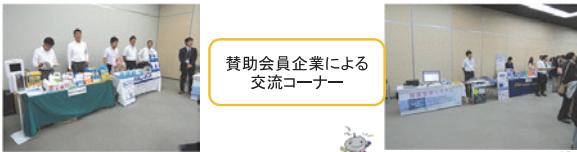
12

ポスターディスカッション



みなさんの研究の成果ですネ！

賛助会員企業による
交流コーナー



13

ランチョンセミナーⅢ 「これからの不眠症治療を考える」

座長 秋田大学 苗村育郎先生
演者 もりおか心のクリニック 上田均先生

大ホール

現在、不眠症治療薬の主流として使われているBZs・非BZs系睡眠薬、メラトニン受容体作動薬ラメルテオン(RMT)、最近承認になったオレキシン受容体拮抗薬スボレキサント(SUV)の使い分けと、今後の不眠症治療のあり方についてのお話をいただきました。

ランチョンセミナーⅣ 「若年2型糖尿病へのアプローチ：「コントロールする」から「治す」を目指して」

座長 昭和大学 米山啓一郎先生
演者 東北労災病院 赤井裕輝先生

小ホール



糖尿病の食事療法のポイントと強化インスリン療法の効果について実際の症例からお話をいただきました。

14

シンポジウムⅡ 「障害者差別解消法の施行と障害学生支援」

大ホール



司会 弘前大学 田名場美雪先生
山形大学 高橋国法先生

シンポジスト
放送大学 広瀬洋子先生
筑波技術大学 白澤麻弓先生
成蹊大学 岩田淳子先生

15

引き続き、大ホールでは、いよいよ。。

優秀演題賞表彰式



優秀演題は10題でした。(演題番号順)

- A2-4 岐阜大学の堀田亮先生
- B1-3 産業医科大学の八谷百合子先生
- C2-4 岐阜大学の機村有希先生
- C4-6 静岡大学の加治由記先生
- D2-5 明海大学の杉浦雄策先生
- E2-4 新潟大学の上ノ山友子先生
- F2-2 北翔大学の入江智也先生
- F4-5 筑波技術大学の佐々木恵美先生
- G2-2 山梨県立大学の坂本玲子先生
- G5-2 岩手大学の新村暁先生

皆様携わった方々とともに、おめでとうございます！！

16

閉会式

次期開催校挨拶 大阪大学 瀧原圭子先生



閉会の辞 運営副委員長 立身政信先生
(岩手大学保健管理センター長)



17

全行程終了!! スタッフの皆さん、大変お疲れ様でした!!!!



18

平成27年度 国立大学法人保健管理施設協議会

総 会 を終えて



日時：平成27年度9月11日（金）

場所：メトロポリタン盛岡本館

当番大学：秋田大学

19



20

岩手大学保健管理センター紀要

第 43 号

平成29年3月 発行

編集 〒020-8550 盛岡市上田三丁目18番34号

TEL (019) 621-6074

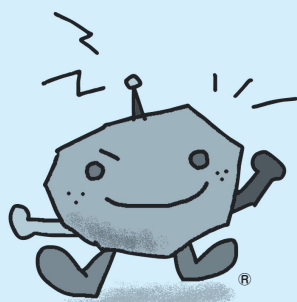
発行 岩手大学保健管理センター

印刷 杜陵高速印刷株式会社

盛岡市川目町23番2号

盛岡中央工業団地

TEL (019) 651-2110



がんちゃん



この冊子はグリーン購入法に
基づく基本方針の判断基準を
満たす用紙を使用しています。